

第287号

平成18年度 第1号

# 親潮



北水同窓会

<http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp>

平成18年8月31日

# 食文化の急速な国際化に伴い 水産総合商社を目指す道水



株式会社 道 水

代表取締役会長 高野洋藏（24年製造科卒業）  
代表取締役社長 高野元宏

水産物卸売及び加工販売、水産物輸出入、冷凍冷蔵倉庫、不動産賃貸業

本社	函館市豊川町27番5号	TEL(代) 0138)22-7136	FAX 0138)22-3777
はこだて工場	北斗市清水川142番24号	TEL 0138)77-2200	FAX 0138)77-1800
韓国支店	大韓民国釜山廣域市中區中央洞四街53-17(第一火災ビル9階)	TEL 82-51-462-2456	FAX 82-51-462-1567
東京営業所	東京都港区芝浦4丁目16番36号(住友芝浦ビル)	TEL(代) 03)3451-0194	FAX 03)3451-1945
札幌営業所	札幌市中央区北12条西20丁目1番26-301号(第2丸果ビル)	TEL 011)640-7822	FAX 011)640-7833
仙台営業所	宮城県仙台市榴岡4丁目5番24号(第一バークビル2F)	TEL 022)791-7017	FAX 022)791-7018
長岡営業所	新潟県長岡市台町1-8-26(グリーンピア台町)	TEL 0258)31-0231	FAX 0258)31-0232
名古屋事務所	愛知県名古屋市港区小碓3丁目126番地(丹羽マンション2棟231号)	TEL 052)389-5775	FAX 052)389-5775
中国大連事務所	中華人民共和国遼寧省大連市中山区祝賀街35号(錦联大厦1710号)	TEL86-411-8252-7815	FAX86-411-8252-7912

## **創基100周年記念募金と第87回定期総会**

現在、既にご案内のとおり北海道大学水産学部創基100周年記念に向けて「北海道大学水産科学研究院教育研究・学術交流支援基金」の募金を行っております。今までにご厚志をいただいております同窓各位に感謝申し上げます。お陰様で現在のところ、順調に進行しておりますが、残念ながら目標額までまだ遠い状況にあります。もし、お忘れの方がいましたらぜひこの機会に寄附手続きをお願い申し上げます。

平成18年7月  
北水同窓会  
会長 横山 清  
(北海道大学水産学部創基100周年  
記念事業推進後援会 会長)

北海道大学大学院水産科学研究院  
研究院長 原 彰彦  
(北海道大学水産学部創基100周年記念事業実行委員長)

第87回北水同窓会定期総会は創基100周年記念行事にあわせて平成19年5月26日に函館で開催いたします。全国各地より多数の会員の皆様のご出席をお待ちしております。

平成18年7月  
北水同窓会本部幹事一同  
北水同窓会函館支部一同

# 北海道大学水産学部創基100周年記念行事日程のご案内

北海道大学水産学部創基100周年を記念して、北海道大学大学院水産科学研究院の主催で下記のように、記念式典および行事を開催致します。

多数のご出席をお願い致します。

## 記

### 平成19年5月26日（土）

(受付開始 8:30~)

記念式典	10:00 ~ 11:15	学部講堂
記念碑除幕式	11:30 ~ 11:45	学部キャンパス
記念講演会	14:00 ~ 16:10	函館国際ホテル
(函館駅前・函館国際ホテルへ移動：バス 13:10発~)		

(受付開始 16:15~)

北水同窓会総会	17:00 ~ 17:40	函館国際ホテル
祝賀会	18:00 ~ 20:00	函館国際ホテル
☆水産資料館等公開	8:30 ~ 14:00	学部キャンパス
(水産資料館リニューアルセレモニー 9:00~)		

### 平成19年5月27日（日）

練習船公開	8:30 ~ 12:00	おしょろ丸・うしお丸 (船上レセプション 10:30~、於おしょろ丸甲板上)
☆水産資料館公開	8:30 ~ 12:00	学部キャンパス

なお、およその参加人数を把握する必要があることから、「親潮288号」（平成19年2月発行予定）にご出席予定の確認の葉書等を添付しますので、北水同窓会事務局宛にお申し込み下さるようお願い致します。

# 親潮(第287号)

## 目次

### お願い

会費納入のお願い

同窓会ネットワーク誌「親潮」への広告のお願い

北海道大学水産学部同窓会ホームページのお知らせ

### ご挨拶

学部長（研究院長）ならびに名誉会長就任にあたり	原 彰彦 (46ゾ) … 1
新しい水産学の発展への期待	山内 眞平 (44ゾ) … 2
幹事経験者として	米田國三郎 (40エ) … 2
定年退官の挨拶	関 伸夫 (42修化) … 3

### 本部だより

第86回定期総会報告	… 4
水産学部の学科改組について	猪上 徳雄 (41セ) … 11

### 会員の受賞

山口 篤氏 (平6ゾ) 2006年度日本海洋学会岡田賞受賞	池田 勉 (43ゾ) … 12
後輩 秋葉文和君の黄綬褒章受章について	佐藤 立治 (36エ) … 12

### 寄稿

特別会員に推されて	鵜沼 ワカ (元医療室看護婦) … 13
北水水産学部校内の桜	山崎 文雄 (33ゾ) … 15

### 支部・会員だより

上げ潮会（26セ）静岡大会報告	宮澤 宏 (26教セ) … 16
平成17年度北水同窓会小樽支部総会の報告	平山 聰 (54ギ) … 17
喜寿-23セ東京地区クラス会便り	生田 博司 (23セ) … 18
八絃会（昭和17年卒）関東地区会の集会	添田 恒 (17ヨ) … 19
新制遠漁第4期会（S26卒）北晨会開催	茨木 悟 (26エ) … 19
北水同窓会余市支部総会	中多 章文 (62ギ) … 21
北水マンドリンクラブOB・OG総会-函館河畔亭で開催	草刈 宗晴 (39ゾ) … 21
昭和32年卒 同期会（札幌）	杉田 哲夫 (32エ) … 23

### 追悼

井上先生を悼む	袖木 一男 (18ギ) … 25
長谷部優君（平2ギ）追悼	檜垣 直幸 (平2ギ) … 25
肥後モッコス坂田章雄が死んだー彼との不思議な話四つ	島崎 清康 (17ギ) … 25
木村喬久先生を悼む	吉水 守 (47食) … 27
会員死亡通知	… 27

### 学内ニュース

学位取得者と論文題目	… 28
会員異動	… 29
平成17年度進路状況一覧	… 30
有朋自遠方來不亦樂乎	… 32
表紙写真説明	… 33
編集後記	… 33
投稿規定	… 34

## お願い

### ◆会費納入のお願い◆

北水同窓会の年会費（4,000円）の納入をお願い申し上げます。

本部の運営は、この同窓会費ですべて賄っておりますが、近年不況のためか会費の納入率が低下しております。会員の皆様におかれましては本会の運営維持のため今年度分からでもぜひお納め頂きたくお願い申し上げます。なお、過去の未納分は問いません。

会費納入の際には、本号巻末に綴じ込みの郵便振替用紙をご利用下さい。また、郵便局にてご自分で振替用紙にご記入される場合には、下記の振替口座番号および加入者名をご記入下さい。併せて郵便自動払込制度をご利用されたい方は、本部に自動払込利用申込書がございますのでご用命ください。すでに郵便自動払込の手続きをされている方は、毎年7月31日に引き落としになりますので通帳の残高の確認をお願い致します。

振替口座番号：02620-5-581

加入者名：北水同窓会

なお、会費納入方法のお問い合わせ、住所変更等のご連絡につきましては北海道大学水産学部同窓会（〒041-8611 函館市港町3-1-1、電話&FAX：0138-42-3681、E-mail：[hokusui@hotweb.or.jp](mailto:hokusui@hotweb.or.jp)）で承っております。電話受付時間は午前9時から午後3時までです。

### 同窓会ネットワーク誌「親潮」への広告のお願い

同窓会誌「親潮」への広告を募集しております。つきましては、従前からの広告主は勿論のこと、新規広告主の応募も歓迎しております。同窓会支部幹事の方々ならびに会員各位による広告主の開拓を切にお願いいたします。広告は隨時受け付けており、広告料は親潮1年分について、以下のようになっております。

表紙裏面または裏表紙の両面

1 頁	80,000円
1/2 頁	40,000円

普通頁

1 頁	60,000円
1/2 頁	30,000円
1/3 頁	20,000円

# 北海道大学水産学部同窓会ホームページ のお知らせ



皆さま、北水同窓会にホームページがあるのはご存知ですか？

北水同窓会では、平成15年度からインターネットホームページを開設しています。

ホームページへのアクセスには、お手持ちのインターネット接続されているコンピューターから、<http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp> とご入力ください。

ホームページには、「お知らせ」や「投稿掲示板」、「写真集」、「リンク」などの項目がございます。また、同窓会会員の皆さんに最新の情報を提供できますよう、Topics欄を設けるとともに、「投稿掲示板」を通して同期会や同窓会などの通知や報告を行っております。

ホームページの充実を図るためにも、ホームページ掲示板への投稿文書、写真等を募集しております。同期会の呼びかけ、同窓会の報告、支部会の活動状況など、北水同窓生の交流の場として「投稿掲示板」をご利用ください。依頼文書や写真などは、下記メールアドレスへお送りください。なお、掲示板への掲載可否については本ホームページ管理者において決定させていただきますので、予めご了承ください。公的運用を目的とした掲示板ですので、個人的な宣伝活動、商業目的の宣伝活動、誹謗中傷記事などについては固くお断りいたします。

同窓会本部では、ホームページをより良きものにしていきたいと考えております。ホームページに関するご意見、ご感想などをお寄せください。

皆さま、北水同窓会ホームページを是非ご訪問ください！！

---

ホームページに関するご意見・ご感想は  
[alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp](mailto:alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp)  
までお願いします。

— ◇ ご 挨 拶 ◇ —

**学部長（研究院長）ならびに  
名誉会長就任にあたり**

北水同窓会名誉会長 原 彰彦（46ゾ）



この度、山内前学部長（研究院長）の任期満了を受け、本年4月1日より学部長（研究院長）に就任いたしました。さらに、5月20日に大阪で開催された第86回定期総会において、北水同窓会名誉会長に推举されました。いずれの職責を全うするにしても、一世紀の歴史を刻む水産学部の伝統の重さを感じざるを得ません。私の任期中の役割は、この伝統をさらに次へとステップアップし、世界水準の教育研究拠点としての環境整備と新たな100年へ向けた確かな基盤を構築することにあります。微力ではありますが、同窓各位のご協力を得ながら精一杯努力する所存であります。

この数年、教育研究を世界的な水準に押し上げるために21世紀COEプログラムなど各種の競争的資金が投入されるようになってきていますが、大学の財政を取りまく状況は、国立大学法人化後、一層厳しさを増しています。特に、運営費交付金に占める人件費の割合を抑制するため、組織としての努力が強く求められています。さらに、少子化の中で水産学・水産科学に興味のある受験生をどう確保するのかは大きな課題といえます。この課題については、従来の水産学の概念から脱皮し、新しく構築しようとしている21世紀型の新しい水産科学の理念を社会に認知してもらう必要があります。それが、大学院重点後の総合大学の中の一翼を担っていく上でも大きな目標といえます。

水産学部では、学生の学科志望バランスを欠く状況が長く続いたことから、学生の希望を反映できるような学科再編によって解決を講じる必要に

迫られ、学科内容の見直しおよび学科間の壁を低くするような学科再編を行い、平成18年度にスタートしました。同時に昭和29年度に設置された水産教員養成課程の学生定員をこの新4学科に振り分ける移行整理を行うことで、定員の変更を行わずに教育職員免許取得の課程認定を受け、組織を現状に合わせることで水産教員養成を継続することとしました。これらは、絵面元学部長（研究科長）と山内前学部長（研究院長）のご尽力と組織に所属する教員の協力によってなしえた次の一世紀に向けた大きな改革であります。私共は現在、新学科と新しい学院・研究院制度の下で世界水準の教育研究拠点形成を目標に努力しております。

これからの中大は、地域社会での貢献も求められます。現在、函館地域はかつての漁業・加工（今までの水産学）のための基地としてではなく、国際的・先端的な水産・海洋に関する学術・研究拠点都市の形成を目指しております（函館国際水産・海洋都市構想）。その学術・研究の蓄積・応用（新しい水産科学）に基づき、特に東南・東アジア魚食文化圏というアジア水産業を支える中心となり、それが地域の活性化と同時に新たな世界戦略へつながります。水産科学研究院は、この国際的・先端的学術・研究を推進する中心的存在となります。しかし、この基盤整備は単独でできる訳ではなく、地域が一体となった学術機関の連携および関連研究機関の集積を伴う必要があります。この新たな水産科学戦略という目標達成のためにも、同窓各位からのご支援とご協力をお願いいたします。

最後になりますが、北水同窓会のますますの発展を祈念し、水産学部長（研究院長）並びに北水同窓会名誉会長就任挨拶と致します。

## 新しい水産学の発展への期待

山内 眩平 (44ゾ)



この3月に一応北大を退職いたしましたが、4月からは函館キャンパスでは大学院水産科学研究院の特任教授として、また、札幌キャンパスでは副理事、創成科学共同研究機構の

副機構長として引き続き北大に勤務しています。勤務地は函館ですので、毎週札幌へ勤務のため通っています。

私は平成7年4月から4年間、学部長・研究科長として、また平成14年4月から研究科長・学部長（平成17年4月からは研究院長）として、その間の平成11年4月から3年間は北大評議員として11年間、学部および北大の運営にあたってきました。私が教授に昇任したのが平成6年4月ですので、教授として研究できたのが僅か1年という研究者としては何とも情けない状況でしたが、それでは研究を棄てる代償として学部の運営と水産学部の発展のために全精力を注ごうと考え、今日までその目的に向って邁進してきました。

今、大学は大変革の波に襲われています。自分の専門分野は勿論のこと、学部、大学の存続も保障されないという大変な時代となっていました。果たして水産学部は生き残れるのか、生き残るためににはどのような方向に進めばよいのか、というのがこの10年間余り考え続けてきたことです。

明治時代を作った新政府は欧米に追いつけ追い越せと彼らの学問を日本に導入しましたが、理系の学問で唯一欧米になかったため、日本で発達した分野があります。それが水産学であり、札幌農学校で発祥したのです。水産学の講義を受けて、水産学者として内村鑑三、伊藤一隆はじめ多くの俊英達が活躍したのはご承知通りで、私達の先輩達が日本の水産学を作り、それが日本に、また世界に拡がっていったのです。従って、私達は

これからの水産学の有り方にも責任を持っていく必要があります。

現在、日本の水産業は縮小を余儀なくされています。このような現状の中で水産学はどのように位置付けられていくのでしょうか。水産業が縮小していくけば実学としての水産学はどうなっていくのでしょうか。必要ないと切り捨てられていくのでしょうか。日本だけで水産学を考えればそのようになっていく可能性が高いと思われます。

世界的規模で爆発的に増加している人口を地球は養っていけるのかどうか、種々議論が起っていますが、少なくとも陸圏でのタンパク資源の生産は限界にきているようで、水圏の食料資源の確保は重要な課題です。

東アジアは魚食文化圏です。この魚食文化圏の国々の漁業生産量は世界の半分弱を占めています。これらの国々と将来の水産について一緒に考えていく必要があります。従って、魚食文化を持つ国々と共に水産学の教育研究体制を作っていくかどうかが、水産学の将来を決めていくものと考えています。水産学部は今、その方向に向けて、体制を整えて、動きはじめているところです。このように水産学の国際化がなされ、その中心的役割を水産学部が担うことが出来れば水産学は重要な学問分野として、認知されていくものと期待しています。北大同窓会の皆様のご支援を是非お願いいたします。

## 幹事経験者として

米田國三郎 (40工)



特設専攻科を修了後、練習船の航海士として勤務してから40年を経て、無事定年退職出来た事に満足しております。先輩、後輩をはじめとする大勢の方々の温かなご支援があった

からこそと、深く感謝し厚く御礼申し上げる次第です。

練習船から漁業航海学講座に配置換えになった翌年の昭和51年から同窓会本部幹事を5回経験しておりますが、二回目の組織部幹事となった、昭和59、60年の時が最も印象に残っております。同窓会員の移動に伴う名簿の訂正を迅速かつ正確に行えるよう、会員情報の電算化を図ることが初年度の課題でした。そのためには氏名や卒業年次の確認が必要となり、坂本有隣氏（昭29エ）と私が調査にあたりました。札幌時代は本学の図書館に保管されていた卒業名簿で、函館では学籍簿を特別に閲覧させて頂きました。余話一題。学籍簿にすでに退官された某教授の名を見つけました。そこに記されていた文字は「頑固」の二文字です。教育・研究に携わる大学教官には必要なことなのかと、妙に感心させられたものです。氏名の誤りが結構ありました。一例として、故人ですが冷駐鶴船と名簿に記されていたのですが、正しくは馮鶴舟です。印刷屋がなぜ間違えたのか、お分かりいただけだと思います。また卒業年次が異なっているものもありましたが、名簿に記された通りにしました。これは同期として学生生活を共に過ごしたという強い絆を感じたからです。同窓会名簿に故人名を掲載しているのも同じ仲間であるという意識の表れでしょう。電算化には苦労しましたが、その分充実感がありました。翌60年、富士プリント（株）が電算機による名簿作成に取り組んでいることを知り、データを提供するなど種々協力してソフト開発に成功。特に都道府県別在住者索引のソフト作りには多くの思い出があります。以来21年、過ぎてみれば幹事冥利に尽きるのかなと懐かしく思い出されます。

最後に、先生方が厳しい諸情勢の中で同窓会幹事を務めることは容易でないことを重々承知しておりますが、全国に広がる会員と支部のために更なるご尽力下されるよう願っております。

## 定年退官の挨拶

関 伸夫（42修化）



去る2006年3月末日をもって定年退官となりました。母の実家が水産業を営んでいた影響で、高校時代から水産物の鮮度と品質保持に关心を持っておりました。1965年（昭和40年）、当時この分野で先端的研究をされておられた斎藤恒行教授のご指導を仰いだことが、ご縁となり1968年に水産学部助手に採用になりました。それ以来、本学での研究と教育に長い間携わることができました。特に、水産食品の鮮度、品質、ねり製品の製造原理の研究を通して魚介類筋肉のタンパク質（ミオシン、アクチン、調節系タンパク質、コネクチン、アクチニン、パラミオシンなど）と酵素（プロテアーゼ、トランスクルタミナーゼ、TMAOaseなど）の生化学的研究を行ってきました。この間ご指導ご鞭撻をいただいた諸先生並びに先輩諸兄の皆様に深く感謝申し上げます。さらに職員の皆さん、および多くの優秀な学生、院生の諸氏に恵まれ、水産食品と水産生化学分野にささやかな貢献ができたと思っております。それにも増して、研究室で楽しい時間が過ごせたことを何よりも感謝しております。同窓の皆様も大学での思い出はおそらくは講義や研究のこともありながら、大学での楽しい雰囲気ではなかったでしょうか。法人化で大学の組織は研究と教育の分離という効率優先のシステムに変わりましたが、研究も教育も人間味のある楽しい空間が失われては研究の活性化も教育の推進にも多くは望めないと思いますので、後輩の先生方にはこの点を特に留意され、ますますのご発展を期待しております。

水産食品はほとんど毎日食しているものです。あまりにも身近な存在ですので、研究の対象になるのかと思われる方もおられるかも知れませんが、科学的な研究はまだ始まったばかりです。旨くて

美味しい水産物を食べるためには、魚を安樂死させる漁獲方法、美味しい遺伝子を持った魚の養殖方法、健康機能性の研究、食品製造技術の革新と新規開発、流通時の品質低下の抑制など広範な研究が必要で、それらの総合的な基盤の上にしか実現できないものなのです。私は現在、民間企業で食品機能科学の分野に係っておりますので、北大でのこの分野の研究がますます発展することを期待しております。同窓の皆様のご活躍とご健勝をお祈りします。

## — ◻ 本部だより ◻ —

### 第86回定期総会報告

北水同窓会第86回定期総会は、平成18年5月20日（土）に大阪市中之島センタービル・トップラウンジ31を会場として、会員88名、他に北大関西同窓会会长遠藤彰三氏（昭37工・鉱）、北大関西エルム会代表理事日下大器氏（昭37農）、同理事山口利昭氏（昭39農）の3氏の参加をいただき午後3時より盛大に開催された。

中田邦彦氏（61食）による総合司会の下に、開会挨拶、横山清会長（35工）の挨拶に引き続き、入江和彦氏（45ギ）を議長に選出して議事にはいった。

先ず、議案第1号平成17年度事業経過報告および会計決算報告については、猪上徳雄幹事長（41セ）からの一般経過報告、各部担当幹事からの報告説明があり、これらが一括承認された。

次に、議案第2号については、(1)平成18年度役員改正案、(2)第87回定期総会開催地を函館とする案、(3)創基100周年記念事業募金規模の修正案、(4)各部からの平成18年度予算案が提案され、一括承認された。これにより、次回定期総会開催地は函館とし、水産学部創基100周年記念行事の中で平成19年5月26日（土）とする日程も了承された。また創基100周年記念特別会計予算では、準備積立金（6年間で300万円）の他に北水同窓会特別

会計より300万円を繰入れることが認められた。このうち特別会計からの繰入金は、事業の終了後に年次計画で一般会計予算から特別会計予算に返金することも同時に承認された。その他の議案では、会場から水産学部の構内に植えられている桜の木や環境一般について整備したほうがよいとの提案があり、幹事長から創基100周年の基金の中で一部を環境整備に使えるように善処できるよう反映するとの回答があった。幹事長の閉会の辞をもって定期総会は無事終了した。

引き続き午後4時20分から、大阪ガスケミカル株式会社会長であり北海道大学関西同窓会会长をされている遠藤彰三氏（昭37工・鉱）の「世界の水問題について」と題する講演が行われた。大変興味深く、会員の皆には日ごろ使い慣れている水について考えさせられる内容であった。

午後5時30分より開催された懇親会は、大阪支部理事大村泰治氏（51食）の総合司会で、横山清会長の挨拶、大阪支部顧問鈴木康男氏（24セ）の乾杯で開始された。懇談が続いた後、大阪総会に出席いただいた各支部長からの挨拶があった。兵庫県支部長岡村武司氏（53ギ）、京滋支部長小林正昌氏（39ゾ）、富山県支部長竹長公彦氏（34エ）、和歌山県支部事務局長丸山清重氏（55ゾ）、愛知県支部長深谷勲氏（36セ）及び東京支部長鈴木賢一氏（36セ）から挨拶や各支部の様子が報告された。愛知県支部長から会長に支部として創基100周年記念事業に募金が手渡され、他の支部にも影響が及んだ。盛り上がりを見せた懇親会は、関西エルム会理事でもある大野正浩氏（36セ）および横山清会長などの音頭によって、寮歌、避遙歌、都ぞ弥生を全員で輪になって齊唱した。支部顧問で前支部長の藤井明氏（36セ）の締めの乾杯で閉会となった。

大阪支部会員や近郊の各支部への案内・呼びかけさらに会場の準備等に多大なご尽力をいただいた大阪支部長の入江和彦氏（45ギ）、事務局長の中田邦彦氏（61食）をはじめとし支部幹事の方々、また、総会に出席された横山会長はじめ会員の皆様方に感謝申し上げます。

文責 猪上徳雄（幹事長）

出席者 88名 (卒業年順 敬称略)	藤原 匠逸 (平13生)	弓場 陽子 (平17生)
北村 弘行 (22ゾ)	久保田幸一 (45化)	青山 大輔 (平14生)
中村榮八郎 (24セ)	入江 和彦 (45ギ)	山口美由紀 (平18資)
鈴木 康雄 (24セ)	阿部 周一 (46ゾ)	中村 拓真 (平15シ)
宇田 貞吉 (24ゾ)	田中 文夫 (50食)	阪尾 寿々 (平18生物・院)
熊木 義成 (24教セ)	佐々木 謙 (50食)	小林 豊 (平16生)
箕田 嵩 (31ゾ)	北田 修一 (51ギ)	
民上 義 (31ゾ)	大村 泰治 (51食)	
小橋 保智 (32ギ)	北出 弘 (52ギ)	
竹長 公彦 (34エ)	津森 滋 (53ゾ)	
井上 忠雄 (35セ)	岡村 武司 (53ギ)	
田中 隆 (35セ)	蛇沼 俊二 (53ギ)	
若杉 康 (35セ)	西本 恵市 (54ギ)	
竹田 邦雄 (35ゾ)	石田 浩平 (54食)	
横山 清 (35エ)	中山 勉 (54ギ)	
藤井 明 (36セ)	福間 浩一 (55ギ)	
大野 正浩 (36セ)	丸山 清重 (55ゾ)	
深谷 熟 (36セ)	大橋 人司 (56ギ)	
杉浦 佑二 (36セ)	佐々木雅人 (56化)	
佐々木君男 (36セ)	堀 直恭 (58食)	
祝 吉彦 (36セ)	堀 清美 (58食)	
朝倉 健治 (36セ)	滝澤 和宏 (60化)	
西川 雄造 (36セ)	中田 邦彦 (61食)	
鈴木 賢一 (36セ)	村田 泰克 (62ギ)	
町田 健治 (36ゾ)	安田 昌樹 (62ギ)	
池田 清哉 (36ギ)	高木 正夫 (62ギ)	
徳永 徹 (37セ)	高津 哲也 (63ギ)	
吉野 生壯 (37ゾ)	井上 英樹 (平2ギ)	
内田 奎司 (37ギ)	松谷 隆昭 (平2ギ)	
吉田 宣雄 (38ギ)	宮下 和士 (平2ギ)	
山内 秀元 (38エ)	川邊 一郎 (平3ゾ)	
小林 正昌 (39ゾ)	吉村 直孝 (平3ゾ)	
三栗 茂 (39ギ)	西川 哲也 (平3ゾ)	
高山 吉隆 (40ゾ)	東 稔 (平3ギ)	
猪上 徳雄 (41セ)	小田 哲也 (平4ギ)	
峯岸 裕 (41セ)	新瀬 幾恵 (平7ゾ)	
藤井 洋治 (42ギ)	森下 新 (平8ギ)	
米谷 孝治 (44食)	堀越 光晴 (平8ギ)	
山口 皓 (44ギ)	辻村 浩隆 (平10ゾ)	
吉川 圭一 (44エ)	佐竹 基 (平11資)	
西田 徹也 (44エ)	大西 寛明 (平12資)	

## 北水同窓会定期総会式次第

## 1. 開会の辞

副幹事長 猪上 徳雄 (昭41セ)

## 2. 議長選出

## 3. 議案第1号

平成17年度事業経過報告および会計決算報告

## (1) 一般経過報告

幹事長 猪上 徳雄 (昭41セ)

## (2) 庶務部報告 (資料1)

庶務部 蛇沼 俊二 (昭53ギ)

## (3) 編集部報告 (資料2)

編集部 阿部 周一 (昭46ゾ)

## (4) 組織部報告 (資料3)

組織部 宮下 和士 (平3ギ)

## (5) 会計部報告 (資料4)

会計部 高津 哲也 (昭63ギ)

## (6) 会計監査報告

監事 山本勝太郎 (昭42ギ)

## 4. 議案第2号

## (1) 平成18年度役員改選案 (資料5)

庶務部 蛇沼 俊二 (昭53ギ)

## (2) 第87回 (平成18年度) 定期総会開催地

(函館) 平成19年5/26 (土) について

幹事長 猪上 徳雄 (昭41セ)

## (3) 北海道大学水産学部創基100周年

記念事業推進後援会について

幹事長 猪上 徳雄 (昭41セ)

## (4) 平成18年度予算案

## 1. 会計部予算案 (資料6)

会計部 高津 哲也 (昭63ギ)

2. 編集部予算案（資料7）

編集部 阿部 周一（昭46ゾ）

3. 組織部予算案（資料8）

組織部 宮下 和士（平3ギ）

4. 創基100周年記念特別会計予算案

（資料9）

幹事長 猪上 徳雄（昭41セ）

5. その他

6. 閉会の辞

幹事長 猪上 徳雄（昭41セ）

庶務部報告（資料1）

1) 新入会員数

水産海洋科学科	38名
海洋生産システム学科	39名
海洋生物生産科学科	65名
海洋生物資源化学科	57名
大学院（他大学、他学部出身者）	15名

合 計 214名

2) 本年度物故者（3月15日現在）

正会員	84名
特別会員	2名
合 計	86名

3) 会員現在数（3月15日現在）

正会員総数	12,862名
(内準会員数)	(22名)
物故正・準会員数	2,357名

正会員現在数 10,505名

特別会員数 62名

名誉会員数 4名

賛助会員数 5名

会員数合計 10,576名

4) 新入会員を含めた正会員現在数

（3月15日現在）

合 計 10,790名

物故者名簿（3月15日現在）

氏名	期	氏名	期
福岡二郎（特）	（S 24ゾ）	岡野惣一（S 24ゾ）	市二児（S 25ギ）
佐藤一成（特）	（S 25ギ）	平井健（S 25セ）	（S 25セ）
井中喜平治（S 8ヨ）	（S 25ゾ）	吉越前（S 25ゾ）	（S 25ゾ）
新城喜元（S 8ギ）	（S 26ギ）	安達吉（S 26ギ）	（S 26ギ）
川高泰（S 9セ）	（S 26ギ）	林安松（S 26教セ）	（S 26教セ）
黒福泰（S 10セ）	（S 26ゾ）	口小細（S 26ゾ）	（S 26ゾ）
飯井輝（S 11ヨ）	（S 26ゾ）	水次（S 26ゾ）	（S 26ゾ）
植木源祐（S 12ギ）	（S 28ギ）	能繁（S 28ギ）	（S 28ギ）
樺木次（S 14ヨ）	（S 28ギ）	塚口（S 28ギ）	（S 28ギ）
福井泰（S 14ギ）	（S 28ギ）	岡谷（S 28ギ）	（S 28ギ）
城川正（S 14セ）	（S 28ギ）	原（S 28ギ）	（S 28ギ）
川高源（S 16ヨ）	（S 28ギ）	田（S 28ギ）	（S 28ギ）
福井輝（S 16ギ）	（S 28ギ）	木見（S 28ギ）	（S 28ギ）
飯井三文（S 16ギ）	（S 28ギ）	尾（S 28ギ）	（S 28ギ）
植木總太郎（S 16ギ）	（S 28ギ）	田（S 28ギ）	（S 29ギ）
樺木淳（S 16ギ）	（S 28ギ）	木（S 29ギ）	（S 29ギ）
福井登（S 16セ）	（S 28ギ）	見（S 29ギ）	（S 29ギ）
川村俊（S 16セ）	（S 28ギ）	尾（S 29ギ）	（S 29ギ）
井上正（S 17ヨ）	（S 29ギ）	田（S 29ギ）	（S 29ギ）
川村正（S 17ヨ）	（S 29ギ）	木（S 29ギ）	（S 29ギ）
井上蔵（S 17ヨ）	（S 29ギ）	見（S 29ギ）	（S 29ギ）
川村正（S 17セ）	（S 30ギ）	尾（S 30ギ）	（S 30ギ）
川村正（S 18ヨ）	（S 30ギ）	田（S 30ギ）	（S 30ギ）
川村善（S 19ギ）	（S 30ギ）	黒（S 31セ）	（S 31セ）
川村彦（S 19ギ）	（S 30ギ）	藤（S 32ギ）	（S 32ギ）
川村彦（S 19セ）	（S 30ギ）	藤（S 33ギ）	（S 33ギ）
川村正（S 19セ）	（S 30ギ）	藤（S 35ゾ）	（S 35ゾ）
川村正（S 19セ）	（S 30ギ）	藤（S 37セ）	（S 37セ）
川村正（S 19セ）	（S 30ギ）	喜（S 38ギ）	（S 38ギ）
川村正（S 19セ）	（S 30ギ）	喜（S 39セ）	（S 39セ）
川村正（S 19セ）	（S 30ギ）	洋（S 40ギ）	（S 40ギ）
川村正（S 19セ）	（S 30ギ）	克（S 41ギ）	（S 41ギ）
川村正（S 19セ）	（S 30ギ）	作（S 42セ）	（S 42セ）
川村正（S 19セ）	（S 30ギ）	孝（S 44ギ）	（S 44ギ）
川村正（S 19セ）	（S 30ギ）	司（S 47ギ）	（S 47ギ）
川村正（S 19セ）	（S 30ギ）	男（S 48化）	（S 48化）
川村正（S 19セ）	（S 30ギ）	弘（S 51ギ）	（S 51ギ）
川村正（S 19セ）	（S 30ギ）	彦（S 52ゾ）	（S 52ゾ）
川村正（S 19セ）	（S 30ギ）	淳（S 53ゾ）	（S 53ゾ）
川村正（S 19セ）	（S 30ギ）	樹（S 55ゾ）	（S 55ゾ）
川村正（S 19セ）	（S 30ギ）	智（平4ギ）	（平4ギ）
川村正（S 19セ）	（S 30ギ）	尚（平9ギ）	（平9ギ）
川村正（S 19セ）	（S 30ギ）	子（平13資）	（平13資）

編集部報告（親潮発行）（資料2）

号数	発行年月日	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
285	H17. 8.31	31	8,200	724,000	
286	H18. 2.28	24	8,200	698,250	
合計		55	16,400	1,422,250	

注) 印刷費には振替用紙代、消費税を含む。

## 組織部報告（名簿会計）（資料3）

	項 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
収入	前年度繰越金 一般会計より繰入	1,404,006 1,300,000	1,404,006 1,300,000	名簿積立金 名簿積立金
	広 告 料	1,725,000	2,625,000	
	貯 金 利 子		33	
	合 計	4,429,006	5,329,039	
支出	印 刷 費	3,156,000	3,373,650	
	通 信 運 搬 費	300,000	350,000	
	振込手数料等	20,000	20,000	
	予 備 費	953,006	0	
	次年度繰越金		1,585,389	
合 計		4,429,006	5,329,039	

(繰越金の内訳 郵便貯金 1,585,389)

## 会計部報告（資料4）

## 1) 平成17年度一般会計決算報告

	項 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
収入	前年度繰越金 会 費	3,573,205 10,000,000	3,753,205 9,713,000	2,503名 2,503名
	親潮 広 告 料	300,000	380,000	
	雜 収 入	100,000	87,044	
	合 計	13,973,205	13,753,249	
支出	親潮 印 刷 費	1,600,000	1,422,750	親潮発送費 2回分含む
	通 信 ・ 運 搬 費	1,600,000	1,479,099	
	総 会 旅 費	800,000	800,000	
	備 品 費	50,000	0	
	消 耗 品	300,000	324,356	
	会 議 費	50,000	45,250	
	振 替 手 数 料	150,000	127,775	
	事 務 書 記 費	2,060,000	2,058,920	
	組 織 強 化 費	1,000,000	670,628	
	傭 人 費	150,000	130,000	
	雜 費	30,000	6,331	
	名 簿 会 計 へ	1,300,000	1,300,000	
	OA機器整備費	100,000	100,000	積立
	H P 維 持 費	120,000	120,000	
	100周年準備金へ	500,000	500,000	4年目／全6年
	予 備 費	4,163,205	0	
	次年度繰越金		4,668,140	
合 計		13,973,205	13,753,249	

取支差引額（平成18年度に繰越）4,668,140円  
 (繰越金の内訳：郵便貯金 33,586円、銀行預金 4,520,818円、現金 113,736円)

## 2) 平成17年度OA機器整備費（積立）決算報告

	項 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
収 入	前年度繰越金 一般会計より	0 100,000	0 100,000	
	合 計	100,000	100,000	
支 出	OA機器整備 次年度繰越金	0 100,000	0 100,000	
	合 計	100,000	100,000	

## 3) 平成17年度特別会計決算報告

	項 目	決 算 額	摘 要
収 入	前 年 度 繰 越 金	20,196,647	前年度繰越金の
	定期預金(マリンバンク)利子	4,789	20,193,857円を訂正
	郵便普通貯金利子	4	
入 合 計	20,201,440		
支 出	次 年 度 繰 越 金	20,201,440	
合 計	20,201,440		

## 平成17年度特別会計資産内容

項 目	資 產 額	摘 要
郵便定額貯金 1 口	9,301,000	
郵便普通貯金	89,339	
銀行定期預金(マリンバンク) 1 口	10,811,101	
合 計	20,201,440	

## 会計監査報告

北水同窓会の平成17年度における会計監査を実施した結果を下記のとおり報告致します。

## 記

- 監査対象期間　自 平成17年3月16日  
至 平成18年3月15日
- 出納簿は、関係書類と対査の結果適正である。
- 現金及び預貯金は、出納簿に照合し適正である。

以 上

平成18年3月22日 監事 増田 宣泰 ㊞  
 監事 山本 勝太郎 ㊞

平成18年度役員改選案（資料5）

[○は新任]

会長  
横山 清（昭35工）

名誉会長  
○原 彰彦（〃46ゾ）

副会長  
前田辰昭（〃26工）  
鈴木賢一（〃36セ）  
吉野生壯（〃37ゾ）

相談役  
遠藤信二（〃13ヨ）  
宮原九一（〃14ギ）  
中部長次郎（〃17ギ）

代表理事  
田島研一（〃43食）

学内理事

猪上徳雄（昭41セ）  
仲谷一宏（〃43ゾ）  
廣吉勝治（〃44ギ）  
志賀直信（〃44ゾ）  
築田満（〃45化）  
阿部周一（〃46ゾ）  
吉水守（〃47食）  
桜井泰憲（〃48ゾ）  
山口秀一（〃49ギ）  
板橋豊（〃50化）  
門谷茂（〃50化）  
平石智徳（〃51ギ）  
矢部衛（〃51ゾ）  
梶原善之（〃53ギ）  
蛇沼俊二（〃53ギ）  
○山下成治（〃54ギ）  
監事  
山本勝太郎（昭42ギ）

学外理事  
鈴木恒由（昭20工）  
斎藤昭二（〃23工）  
鹿角幹夫（〃24工）  
長澤正徳（〃24セ）  
佐々木建（〃25教ゾ）

橋本幸二郎（〃26ギ）	山内彬一（〃26ギ）
穴澤邦雄（〃26セ）	大上博司（〃26セ）
中道克夫（〃26ゾ）	五十嵐脩蔵（〃28ギ）
佐野典達（〃28工）	工藤駿一（〃28セ）
中村哲也（〃28セ）	名取喜昭（〃28セ）
寺地潔（〃28ゾ）	伊藤一（〃29ギ）
太田雄一（〃29ギ）	坂本有隣（〃29工）
岡川伸（〃29セ）	大島栄一（〃30工）
富田幸二（〃30セ）	服部保次郎（〃31工）
羽田野六男（〃31セ）	箕田嵩（〃31ゾ）
高野和則（〃32ゾ）	山崎文雄（〃33ゾ）
島崎健二（〃33工）	川島清明（〃33工）
高島優（〃33工）	菊地英樹（〃34工）
米田義昭（〃34セ）	齊藤勝男（〃34ゾ）
高間浩蔵（〃35セ）	山本弘敏（〃35ゾ）
斎藤毅（〃36ギ）	梨本勝昭（〃36ギ）
小祝良介（〃36工）	大割了（〃37ギ）
繪面良男（〃37セ）	河村章人（〃37ゾ）
古井恒弘（〃37ゾ）	麦谷泰雄（〃37ゾ）
安間元（〃38工）	西田清義（〃38セ）
天下井清（〃39工）	吉川正彦（〃39セ）
林賢治（〃39セ）	菅野泰次（〃39ゾ）
奥野信博（〃40工）	小越征夫（〃40工）
○米田国三郎（〃40工）	木村昇（〃40セ）
上平幸好（〃41ゾ）	岸本富男（〃42ギ）
眞木序夫（〃42工）	○関伸夫（〃42修化）
藏多一哉（〃43化）	工藤昭彦（〃44ゾ）
○山内睦平（〃44ゾ）	伊藤悦郎（〃45ギ）
三佐川稔（〃45ギ）	今井信幸（〃47ギ）
赤沢和範（〃47ギ）	中林重雄（〃47ギ）
近江政斗（〃47食）	陸田彰（〃47化）
中昭成（〃47ゾ）	黒瀬道則（〃47ゾ）
土谷俊一（〃48ギ）	吉田悟郎（〃48ギ）
坂本幸造（〃48食）	吉田正人（〃48ゾ）
二瓶幹雄（〃50食）	上戸慶一（〃50化）
長谷川宗治（〃52食）	上野孝雄（〃53ギ）
上野久仁夫（〃53化）	備前悟（〃53化）
○松井良樹（〃54ギ）	
学外幹事	
宮岡秀昌（昭55ゾ）	広崎淳一（昭55ギ）
正木悦郎（〃55ギ）	種田貴司（〃56食）

高 日出入 (〃56ゾ)	藤田 公美 (〃57ギ)	(千葉)	小 泉 守 (〃32セ)
小林 良一 (〃57食)	嶋田 隆司 (〃57化)	(東京)	鉢 木 和 三 (〃38ゾ)
阿部 純也 (〃58ギ)	桐山 智 (〃58ギ)	(東京)	菊 本 肇 (〃40ギ)
横山 信一 (〃58ギ)	佐藤 直孝 (〃58食)	(神奈川)	金 澤 時 夫 (〃49食)
宮園 章 (〃58ゾ)	小野 浩 (〃59食)	(三崎)	本 田 光 一 (〃23工)
吉岡 武也 (〃60食)	吉田 秀嗣 (〃60ゾ)	(静岡)	奥 原 大 典 (〃42セ)
地方理事			
(稚内)	風 無 成 一 (昭41ギ)	(新潟)	小野里 坦 (〃37ゾ)
(留萌・増毛)	吉 田 俊 一 (〃23ゾ)	(富山)	守 屋 義 秀 (〃36セ)
(紋別)	片 岡 靖 (〃42ゾ)	(石川)	竹 長 公 彦 (〃34工)
(網走)	金 澤 克 (〃40セ)	(福井)	○橋 本 志 郎 (〃29ギ)
(根室)	望 月 英 明 (〃30セ)	(愛知)	田 中 傳 四 郎 (〃24ギ)
(厚岸)	山 本 洋 一 (平2ギ)	(京都)	深 谷 黙 (〃36セ)
(釧路)	清 水 富士雄 (昭36工)	(滋賀)	○小 林 正 昌 (〃39ゾ)
(旭川)	齊 藤 隆 司 (〃46化)	(三重)	澤 田 宣 雄 (〃57ゾ)
(十勝)	佐 藤 裕 (〃24セ)	(大阪)	堀 口 吉 重 (〃20セ)
(苫小牧)	木 村 実 (〃48食)	(兵庫)	入 江 和 彦 (〃45ギ)
(室蘭)	小 林 政 利 (〃40ギ)	(和歌山)	岡 村 武 司 (〃53ギ)
(札幌)	林 和 明 (〃38ゾ)	(鳥取)	小 橋 保 智 (〃32ギ)
(札幌)	中 津 俊 行 (〃39ゾ)	(岡山)	山 本 栄 一 (〃52ゾ)
(札幌)	番 匠 義 紘 (〃40ゾ)	(広島)	土 屋 和 弘 (〃35ギ)
(小樽)	○成 田 安 孝 (〃43ゾ)	(鳥根)	堀 田 敬 三 (〃35セ)
(余市)	川 村 一 廣 (〃33ゾ)	(関門)	前 田 善 三 郎 (〃31セ)
(青森)	佐 藤 立 治 (〃36工)	(香川)	○佐々木 博 (〃23セ)
(八戸)	○川 村 久 雄 (〃30ゾ)	(愛媛)	黒 川 康 彦 (〃18ギ)
(秋田)	佐々木 健 (〃35セ)	(徳島)	桑 原 彰 三 (〃53ゾ)
(村山)	○大 原 秀 数 (〃26教ゾ)	(高知)	小 黒 美 樹 (〃23セ)
(庄内)	荒 木 昭 夫 (〃25セ)	(福岡)	細 木 忠 義 (〃17ヨ)
(盛岡)	井ノ口 伸 幸 (〃52ゾ)	(佐賀)	石 尾 真 弥 (〃19セ)
(宮古)	倉 兼 賢 治 (〃47ギ)	(長崎)	花 城 勝 也 (〃26ギ)
(久慈)	船 越 芳 則 (〃55食)	(熊本)	阿 部 茂 夫 (〃22ギ)
(釜石)	白木澤 孝 也 (〃25ギ)	(大分)	村 上 一 (〃31セ)
(仙台)	渡 辺 宏 (〃39セ)	(宮崎)	武 田 晴 美 (〃56ギ)
(石巻)	小 池 幾 世 (〃53ギ)	(鹿児島)	山 崎 正 治 (〃24工)
(気仙沼)	千 葉 敏 朗 (〃46ゾ)	(沖縄)	○川 村 軍 藏 (〃42工)
(福島)	蘭 田 善 一 (〃36工)		西 銘 史 則 (〃54修ギ)
(茨城)	原 田 和 民 (〃24教ゾ)		(北米地区連絡所・北米エルム会内)
(栃木)	○大 友 時 夫 (〃44ゾ)		真 板 洋 輔 (〃32工)
(埼玉)	吉 川 晴 二 (〃41ゾ)		
(館山)	安 田 健 治 (〃56食)		
(銚子)	山 口 隆 夫 (〃53化)		

### 平成18年度本部幹事

直通電話番号  
市外局番(0138)

幹事長	猪上 徳雄(昭41セ) 40-8811
副幹事長	高橋 豊美(〃44ギ) 40-8820
庶務部	○桜井 泰憲(〃48ゾ) 40-8861
	蛇沼 俊二(〃53ギ) 40-8838
	○水田 浩之(〃61ゾ) 40-5534
会計部	○築田 満(〃45化) 40-8870
	川合祐史(〃55食) 40-5583
	高津哲也(〃63ギ) 40-8822
編集部	平石智徳(〃51ギ) 40-5586
	○都木 靖彰(〃59ゾ) 40-8864
	○山崎 浩司(平2食) 40-5574
組織部	吉水 守(昭47食) 40-8810
	○田中 啓之(元平化) 40-8809
	宮下 和士(〃3ギ) 40-8856
事務局	吉田 秀美 42-3681

### 平成18年度会計部予算案(資料6)

#### 1) 一般会計予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	4,668,140	2,300人見込み
	会費	9,200,000	
	親潮広告料	300,000	
	雑収入	100,000	
合計		14,268,140	
支出	親潮印刷費	1,600,000	発行2回
	通信・運搬費	1,600,000	親潮発送費(2回分)含む
	総会旅費	100,000	
	備品費	50,000	
	消耗品	300,000	
	会議費	50,000	
	振替手数料	150,000	
	事務嘱託費	2,060,000	
	組織強化費	1,000,000	総会補助40万円、本部役員会補助12万円等を含む
	パンフレット印刷費	70,000	
	傭人費	150,000	
出	雑費	30,000	
	名簿会計へ	700,000	
	O.A機器整備費(積立)	100,000	
	H.P維持費	120,000	@10,000円×12回
	100周年記念特別会計へ	500,000	5年目／全6年
合計		5,688,140	
合計		14,268,140	

#### 2) 平成18年度O.A機器整備費(積立)予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	100,000	一般会計より積立
	合計	200,000	
支出	次年度繰越金	200,000	合計
	合計	200,000	

#### 3) 特別会計予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	20,201,440	合計
	合計	20,201,440	
支出	100周年記念特別会計へ	3,000,000	次年度繰越金
	合計	17,201,440	
合計	合計	20,201,440	

### 平成18年度編集部(親潮発行)予算案(資料7)

号数	発行年月日(締切り)	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
287	H18. 9 (7月末)	40	8,300	800,000	
288	H19. 3 (1月15日)	40	8,300	800,000	
合計	合計	80	16,600	1,600,000	

注) 印刷費には振替用紙代、消費税を含む。

### 平成18年度組織部(名簿会計)予算案(資料8)

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	1,585,389	名簿積立金
	一般会計より繰入	700,000	
支出	合計	2,285,389	
	次年度繰越金	2,285,389	
	合計	2,285,389	

### 平成18年度創基100周年記念特別会計予算案(資料9)

	項目	予算額	摘要
収入	前年度までの準備積立金	2,000,000	100周年を迎えるにあたり 事業推進後援会会长挨拶文 差込アルバイト
	一般会計より繰入	500,000	
	特別会計より繰入	3,000,000	
	合計	5,500,000	
支出	事業推進後援会会长挨拶文	39,375	
	傭人費	10,000	
	次年度繰越金	5,450,625	
	合計	5,500,000	

・特別会計予算からの繰入金は、事業終了後に年次計画で一般会計予算から特別会計予算に返金する。

## 水産学部の学科改組について

幹事長 猪上 徳雄 (41セ)

水産学部では平成18年4月に学部再編を行いました。これは平成17年4月にスタートした学院・研究院制度移行に合わせて学科編成を見直したものであります。

平成7年度に学部改組を実施してから、平成12年度に大学院重点化と同時に大学院を改組し、さらに平成16年度の国立大学法人化後の平成17年度に再度大学院の改組を行ったことから、学部学科と大学院専攻との関連性が余りにも複雑すぎて（ねじれ現象）、大学院を受験する学生に十分理

解されていない状況になっていました。また、学部レベルでは学生の学科志望バランスを欠く状況が長く続いたことからも、学生の希望が平均化するような学科再編によって解決を講じる必要に迫られていました。

そこで、今回、学科内容の見直し、コース制の廃止および学科間の壁を低くすることで、学生の希望が平均化するような学科再編を行い、今年度からスタートしました。同時に昭和29年度に設置された水産教員養成課程の15名の学生定員を新4学科に振り分けることで実態に合う募集形態としました。

すなわち、学科改組に伴う募集定員（215名）の内訳と学科名等の変遷は次のようにになります。

平成6年度まで	平成7年度から	平成18年度から
漁業学科（80）	水産海洋科学科（40）	海洋生物科学科（54）
水産増殖学科（40）	海洋生産システム学科（40）	海洋資源科学科（53）
水産食品学科（40）	海洋生物生産科学科（60）	増殖生命科学科（54）
水産化学科（40）	海洋生物資源化学科（60）	資源機能化学科（54）
水産教員養成課程（15）	水産教員養成課程（15）	

( ) 内は募集定員

平成12年度に大学院重点化と同時に（教員の所属を大学院に移す）大学院部局化を実施したことから、教員の所属は大学院水産科学研究科となりました。さらに、平成17年度の学院・研究院制度の導入によって、教員の所属は大学院水産科学研究院となりました。したがって、水産学部の学生

に対する教育は、専門に近く、担当可能な科目・実験・実習等を担当していることになります。すなわち、誰々先生がどこの学科に所属しているという固定的概念で考えることはできない状況にあります。

## — ◆ 会員の受賞 ◆ —

### 山口 篤氏（平6ゾ） 2006年度日本海洋学会岡田賞受賞 池田 勉（43ゾ）

本年3月、横浜市立大学で開催された日本海洋学会春季大会において、山口篤氏は「北太平洋の中・深層に分布するプランクトン生物の生態学的研究」により2006年度日本海洋学会岡田賞を受賞されました。岡田賞は海洋学研究に顕著な学術業績をあげた36歳未満の同学会員に授与されるものです。山口氏は平成6年に本学増殖学科を卒業後、本学大学院水産学研究科修士課程に進学し、平成11年3月に同研究科博士課程を修了いたしました。同年4月に株式会社 関西総合環境センターに入社し、3年後の平成14年4月に本学大学院水産科学研究科助手に採用され現在に到っております。山口氏はこの間、プランクトンとして海洋に出現する様々な動物群のうち数量的に最も重要なカイアシ類を主に、プランクトン群集全般の生態学的研究に取り組んできました。とりわけ、関西総合環境センターに在職中は新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）主催の「二酸化炭素の海洋隔離に伴う環境影響予測技術研究開発（WEST COSMIC）」の研究に生物担当者として参加し、北太平洋西部海域で水深6000mにも及ぶ深海プランクトン採集を行い、バクテリア、植物プランクトン、微小動物プランクトン、中・大型動物プランクトンのバイオマスやこれら分類群の量的関係から栄養動態に関わる新しい知見を次々と国際雑誌に発表しました。関西総合環境センター時代は、週末の時間の殆どを論文書きやそれに必要な文献調査に費やしていたと聞いております。今回の受賞は、このWEST COSMICプロジェクトでの努力と、同氏が大学院学生時代に発表した中・深層性カイアシ類の生活史解析を総合した研究成果が高く評価されたものです。

同氏は現在、北洋を主要研究フィールドとして、この海域の詳細なプランクトン生物間の相互関係

や生活史の研究を推進しており、今後益々の発展が強く期待されます。

### 後輩 秋葉文和君の 黄綬褒章受章について 佐藤 立治（36エ）

昭和37年漁業学科卒業の秋葉文和氏（67歳）北日本管工業株式会社代表取締役は、平成16年11月に永年に亘り管工事業界に貢献した功績により黄綬褒章受章の榮誉に浴しました。

秋葉氏は卒業後製薬会社に入社、昭和43年心機一転北日本管工業（株）に入社以降短期間で各種国家資格を取得、平成元年4月社長に就任、青森県内有数の企業に成長させました。

平成2年青森県ウォーターフロント開発において、八甲田丸の係留が決まり、社の設計施工が採用され県当局より高く評価され、また、各種病院、療養所、施設等の身障者の患者さん達の設備環境作りにも貢献し、従業員の福祉向上としては、平成元年東北管工事厚生年金基金の設立にあたり、当初より現在まで理事を務めています。

団体歴としては、青森県管工事協会の副会長、青森市管工事協同組合の専務理事を歴任し、現在は（社）青森県消防設備保守協会理事、（社）青森自動車協会理事、（社）青森県浄化槽検査センター副理事長として活躍しています。

なお、平成11年7日に建設大臣表彰を受章しています。

私としても、秋葉氏が黄綬褒章を受章されたことは非常に喜びとすることであり、皆様にご報告申し上げます。

— ◇ 寄 稿 ◇ —

**特別会員に推されて**  
鵜沼 ワカ（元医務室看護婦）

私は昭和52年から平成12年までの23年間、医務室の看護婦として教職員・学生の健康管理業務に関わった者です。平成12年の定年退職から5年がたった時、同窓会の先生たちの推薦で特別会員にしていただいたこと大変名誉なことと同窓の皆様に心から感謝申し上げます。

私事ですが、平成12年定年退職した年に夫の胃癌が発見され6月入院、11月には天国に旅立ちました。夫と私はそれぞれ人生をかけた別々の仕事を持ち精一杯働いて生きてきました。夫は小さな会社を持っていた事もあり多忙で元旦より家でのんびりする時間は持っていました。私が退職したら、今度こそ夫の空いた時間に合わせて、夫は好きな釣りに私は野山に二人で楽しむ人生設計を立てていました。それが全部消えたのです。この先一人で生きる設計図も希望も全く持っていました。ただ泣いていました。

そんな私を元気づけてくれたものが二つありました。その一つは23年勤めた水産学部の卒業生たちでした。子供のいなかった私たち夫婦は学生達を我が子のように思い接しました。回数は少なか

ったけれど我が家に呼んで一緒に食べるのが好きでした。その卒業生たちが絶えず励ましの便りをくれました。それは勤務していた時の元気な私に戻してくれました。

そしてもう一つは昭和28年から続いている函館植物研究会（初代会長時田先生）の会員になっていたことでした。私の高校3年間はショウジョウバエに夢中だった生物部員でした。休み時間は生物準備室、夏休みはほとんど野外観察と採集。野山での新しい発見にドキドキした3年間でした。植物研究会に参加する度に、友人の誘いで野山に行く度に、わくわくしながら野山をかけづり回った生物部員時代の心に戻れました。子供時代の生物部員は私の人生で最高の時であったと思います。

夫を失って『人はなぜ生きれるのか』を考え続けました。そして5年、やっと見つけました。『人は心で生きている』ことを。人は支え合いながら心で生きているのです。

昨年の7月に50歳になる卒業生が16人「人生の節目を函館に戻って共に祝おう」とやって来ました。遠くはベトナム、宮崎からまでも。彼らは卒業以来28年ぶりの函館でした。大学に寮に函館山に大沼に行って、大いに飲み校歌を寮歌を共に唄い2泊して帰って行きました。この集まりには北朝鮮の「拉致被害者のいち早い救出」を願う同期の増元さんへの応援も組まれていました。彼らが何時集まても共に飲み唄うのは校歌と寮歌、そ



1日目「野武士」にて 2005. 7. 23夜

してそのままあの学生時代に戻るのです。50歳と共に祝った感動を皆の心を詩に託して送ってもらいました。その後の我が家には、この集まりの感動の思い出写真と詩が大きく伸ばして3箇所にも飾ってあります。何時でもあの時の彼らと居れるように。

このように私が元気になれたのは、医務室の母さんをやった23年という時の私の子供達との思い出、そして生物部員にもどれた植物研究会員であったお陰です。この二つはかけがえのない私の人生の宝物です。つまり夫と共に過ごした人生の外に水産学部に勤めた23年が私の人生の最高の宝物であったことを悟ったのです。本当にありがとうございます。そして特別会員にまで推して下さりただただ心から感謝申し上げます。

最後に医務室の母さんから、年に一度の健康診断はどんなに多忙でも必ず受けて下さい。自分と家族の為にです。健康で幸せでありますようにいつも祈っています。

平成18年4月12日記

### 「函館」パートIII

(2005年7月23日)  
小林 次郎作

なつかしい友に会ったよ  
久しぶりに戻ったあの街で  
なつかしい人に会えたよ  
変わらない笑顔だったよ  
毎日一緒に 飲んで騒いだ あの時のまま  
毎日一緒に 泣いて笑った あの時のまま  
心で分かり合えたなら 青葉は要らない  
青い海と青い空が溶け合う街で  
さあ唄おう さあ唄おう  
忘れていた 皆のあの校歌・寮歌 さあ唄おう  
誰かが唄えば 皆が答え  
誰かが踊れば 皆が答える  
イザ飲もう イザ飲もう  
互いの人生に乾杯しよう イザ飲もう  
なつかしい友に会えたよ  
なつかしいあの街で  
また戻ろう また戻ろう  
心の故郷で また会おう



2日目「田にし」にて 2005.7.24

## 北大水産学部構内の桜

山崎 文雄 (33ゾ)

北大水産学部は明治40年札幌農学校水産学科創立から数えて、明年創基100周年の記念すべき年を迎えます。しかしそれより更に遡ること38年前の明治12年にハーバード大学医学部出身のカッタ一氏が札幌農学校に赴任して翌年の明治13年わが国で初めて獣医学を講義、併せて彼が担当していた動物学3時間を6時間に増やし、このうち3時間を割いて、水産学を開講した。この講義を受けた2期生の内村鑑三は“漁業もまた科学の一なり”と題した卒業講演を行い、聴者に感動を与えたと記録にある。カッター氏の水産講義は彼の卓識によるもので、世界に先駆けての講義であったことは間違いない。北大水産学部はその伝統の上に築かれたものである。

私は昭和29年北大理類に入学し、翌年10月に札幌農学校の水産教育を受け継いだ水産学部に移行した。しかし当時の水産学部はその伝統の豊かさとは裏腹に強風が吹くと砂が舞上がるような殺風景な構内にあった。樹木といえば現在の講堂を囲むように建てられていた木造二階建校舎の玄関正面に立派なおんこの木が1本、人目をひいていた。この木と道を隔てて遠慮するかのように、桜が1本、更に並んで守衛さんのいた裏口近くにふじ棚があった。春になるとこの桜とふじの木が飾り気のない構内で美しく咲き、癒される思いがしたことを記憶している。ほかに樹木といえば小田島川の脇にあった北晨寮の周りや今は研究棟となって消えたグランドの周りに松とアカシヤが記憶に残るだけである。このアカシアの1部は今は正面玄関前の芝の中に仰ぎ見る高さとなつて残っている。

緑は眼の薬、人は樹木によって癒され、活力を与えられると云う。私は秘に豊かな樹木のある校庭にあこがれていた。昭和30年代の後半、吉村克二先生は北大農学部農芸化学科のご出身で生化学を講義され、私も増殖学科の学生として先生の講義を受けた。先生は樹木の少ない構内に植樹を思い立ち、少なくとも農学部出身と張り切り植樹を

呼びかけていたようであるが、残念ながら学科の違った私達には声が掛からなかった。先生が先頭になり講座の学生や職員の方を動員して昼の休みに高さ50センチ程の黒松の苗木を構内の道脇を中心に植えたのが今は見事な大木に育っている。すばらしい遺産を残してくれた先生の飾らない姿を学部を訪れて黒松を見上げるごとに思い起している。

さて現在の水産学部はこの見事に育った黒松や卒業生達が記念に植えた白樺その他の樹木に囲まれ、疲れを癒す場も造られている、更に驚くことに春には17種類（紅玉恵、普賢象、雨宿、糸括、南殿、紅時雨、冬桜、一葉、関山、北鵬、大山桜、染井吉野、枝垂桜、八重紅枝垂、太白、一重有明、奈良八重桜）109本の桜が咲き誇り、桜の名所ともなろうとしている。50年前の構内を知る私にとっては隔世の感がある。この大きく育った桜が苗木として植えられたのは水産学部創基75周年を迎えた1983年（昭和57年）の時であった。記念事業の一貫として、当時の木本和博事務長をはじめ、事務職員の皆様の献身的なご努力により植樹されたものであるが、その3年後に米田勤さん（昭和36年製造卒）を励ます目的で函館市青柳小学校6年生の生徒達と桜で著名な浅利政俊先生、学部関係者が一緒になり植樹された25本の桜も含まれている。

米田さんは学部卒業後製薬会社に勤務したが、実験中の事故で腎臓を冒され、幸いにも回復した後、母校の助手として勤務した。彼は教育研究に全力を注ぎ込み成果を上げていたが、不幸にも腎臓病を再発し、その後脳梗塞で右半身の機能を失い、母校を止む無く退職することとなった。彼は若くから絵を楽しんでいたが、退職後は筆を左手に持ち替えて、描き続けていた姿に、同期生達が心を動かされ、資金を集めて東京銀座と函館で個展を開催、これをニュースで知った青柳小学校6年生が米田さんを励まそうとクラスに提案、このクラス担任が浅利政俊先生で桜の植樹につながった。

100本以上の桜が構内に植樹されてから既に20年以上経過し、研究棟が増築されて学部構内の様

子は大きく変った。40名を越える外国人学生とその家族が共々の桜の下でジンギスカンを囲み楽しんでいる姿は20年前の砂が舞い上がる構内では想像出来なかつた。しかし桜は手入れをしなければ、痛み易い木である。医務室に勤めていた鵜沼ワカさん、教室事務の上野澄子さんが桜の調査や世話を当つていたが、2人共既に退職されて、鵜沼さん、三国滋子さん（教室事務、平成8年退職）、鈴木隆一君（平成12年生物生産卒）らの尽力と浅利先生のご協力により取り付けられた樹木札も、立て札も、今は脱落したり放置され、既に痛んで枯れた桜もあると聞く。

そこで有志が集い、水産学部の桜を守る会を結成し、元水産学部長 絵面良男氏（昭37年製卒、函館市榎本町6-20、TEL 0138-57-1149）、元水産学部教授 梨本勝昭氏（昭36漁卒、米田さんと同期、函館市鍛冶2丁目26-17、TEL 0138-51-4512）が中心になって桜の樹木札の再取り付け、碑の作製、桜の世話を業者に委託するための基金をつくる話がまとまり、平成18年10月31日を締め切りとして現在募金を呼びかけている（郵便為替

口座記号02710-6 口座番号77277、名義：北大水産学部の桜を守る会）。水産学部には環境を整えるための予算がほとんどないため、樹木の手入れや芝の管理もままならないと聞いているが、折角育った樹木が勝手な方向にのびて美観を損ねては却つて見苦しいことになりかねない。人手を入れて木の健康を管理し、美観を保つことは不可欠である。基金の集まりによっては芝の手入れも可能になればと願っている。

北大水産学部はわが国に於ける水産教育発祥の伝統を受け継いでいるが、研究に対する責任も重い。沿岸200海里の占管水域が設定されてからすでに久しいが、水産資源管理のあり方について大いに議論し、新しい管理モデルを北大水産学部から発信出来ないであろうか。学部の先生方には伝統を意識して力を發揮して頂きたいと切望する次第です。水産学部の桜を守る会が作る基金が有効に利用されて先生方や学生達の研究、勉学にふさわしい環境、卒業生や元職員の方々が学部を訪れて過ぎし日々を懐かしく想い起こす校庭が造り出せればこれほど嬉しいことはない。

## — ◻ 支部・会員だより ◻ —

### 上げ潮会(26セ)静岡大会報告

宮澤 宏 (26教セ)

昨年11月8～9日、静岡県焼津市大崩の焼津グランドホテルで2年ごとのクラス会を開催し、会員16名奥方9名計25名で、前回とほぼ同じ参加を得た。この会は旧制最後の卒業生と学制改革で新制大学へ進んだ者も含まれている。

大会・懇親会は和やかなうちに進み奥方も皆顔馴染みで、懐かしさは一入話は尽きなかった。エキスカーションも異常気象が続く昨今だが、当日は絶好の好天に恵まれ三保の松原、久能山東照宮、日本平を巡り薄化粧した富士山と隠やかな駿河湾の眺望を満喫してもらった。喜寿が近づき年々老

化が進む我々、前回からこの2年間に4名が鬼籍に入り、我がクラスの入籍率は36.5%に達してしまった。次回の平成19年は地方大会の最後として石山兄の兵庫県城崎で開催する予定であったが彼の体調整わず先送りとなり、母校のある函館に戻って穴沢、大上両兄の骨折りで実施することとなった。男の平均寿命にはまだ間がある筈、各位、健康管理を十分にされ多数参加されることを願つてやまない。

#### (写真の氏名紹介)

2列左より（1列目は同夫人）  
糸井、田岸、鈴木（俊）、増田、今井、尾崎、本間、穴澤、武藤

3列左より  
宮澤、長澤、岩本、真壁、大上、坂本、伊勢



## 平成17年度北水同窓会 小樽支部総会の報告

平山 聰 (54才)

記録的なドカ雪に見舞われた小樽ですが、豪雪にもめげず、恒例の支部総会が平成18年2月24日、市内の「うしお亭」にて開かれました。市役所、水産高校など計19名が参加し、活動報告・会計報告・新役員選出が行われました。平成18年度の新会長に小田一夫(45才)、副会長に赤川晃一(45才)が選出され、幹事長以下は留任ということで

議事終了して、懇親会に移りました。新会長の乾杯の音頭で始まり、各自の近況報告などで和やかにかつ賑やかに時間が過ぎて、最後は最年長の工藤豊(23セ)が締めの乾杯をして終了しました。降りしきる雪の中、その後皆さんどこへ消えたのか不明ですが、たぶんそれぞれの行きつけの場所でまた旧交を暖めたのではないかでしょうか。

今回は初めて参加された方もいました。今まで参加されていない同窓の方々も、是非来年は参加していただきたいと思います。

写真前列左より 藤田征晴(31才)、成田安孝(43才)、小田一夫(45才)、勝木 茂(31才)、工藤



豊(23セ) 中列 平山 聰(54ギ)、堀井亜紀(平9食)、梅崎真大(平10ギ)、亀山喜明(63食)、元岡大輔(平9ギ)、桜庭啓恭(46ギ)、山本十三(平

3ギ) 後列 松浦光紀(44エ)、高野幹男(45ゾ)、斎藤博行(47化)、赤川晃一(45化)、山本貞夫(46化)、五十嵐映兒(48化)

## 『喜寿—23セ東京地区クラス会便り』 生田 博司 (23セ)

“有朋自遠方來不亦樂也”・良い語韻だ、今回、しみじみ思った言葉だ！

友は不老の媚薬、友は救援隊・・・掛け替えのない宝・財産だ。

銀座M会館での「クラス会」、太田夫人紅1点を含めて12名の集い。

臼田から木村喬久、宮野平三両君の告別式模様、また多くの亡き友を偲び、それぞれの“生き様”など交わしつつ、今日の元気な参会を喜びあった。

この頃では夜の出歩き御免もあり、初めて昼の集会としたが効果はあった。

それにしても10年この方、参加者が遞減するのはいささか寂しい。

続いて札幌高橋日出彦からの便り紹介、次の札幌クラス会の肝煎りに期待を込めると共に、揃って参加したい、成功させようと誓いあった。

諏訪湖畔在元老の声に誘われ話題は風発、ウォーキングプロぶり、胸腹に縦3本の手術条痕、が

杯を傾ける不屈者、また心臓手術（外挿施術）、がニセコに蔵王にスキー挑戦と話も“病にも積極的に対処”した勝利感が溢れていた。

また共感も多い加齢臭を抑えたい（後刻、文献集の1つ「コーヒー&ヘルス」小冊子を届ける）ダンディーぶり、またなお若々しく社業に取組む哲学、経営者としての風格に改め感服、などダブル7の人生模様は様々である。

はたまた“戦艦大和を造った呉造船、その遺産を継承、戦後日本を計画生産技術立国に導いた新藤 恒とその仲間”の身内者と学徒動員でその主機製造現場に働いた者が“君は鍼取れ吾は銃、五尺の命引っ下げて・・・”の回顧一齣などなど、時間はたちまち過ぎて4時、午後の陽光に桜花ならぬ淡緑の銀座の柳の芽吹きを愛でつつ、元気な次の再会を願い、左右へ別れを惜しんだ。

写真は後列 木村正昭、岡本栄二、鈴木慶典、臼田正臣、松田勝彦、生田博司  
前列 山崎善種、森脇 浮、田端英一、太田夫人、太田庸穂（長峰 基退出）  
(写真をご覧請う、皆まだ若いつもりです)



北水同窓会 親潮 第287号

平成 18. 8. 31

## 八紘会(昭和17年卒) 関東地区会の集会

添田 恒 (17ヨ)

今年も4月29日(みどりの日)に「八紘会」関東地区会を横浜駅東口の「崎陽軒」本店2Fで12時30分から昼食会を開催、出席者は青戸偕爾、新井邦夫、清水栄一、島崎清康、土屋 要、添田恒の6名であった。この会合は毎年4月29日(みどりの日)に開催するので出席希望の級友は、準

備の都合もあるので4月10日迄に下記にご連絡下さい。

記

土屋 要 ☎ 241-0826

横浜市旭区東希望ヶ丘20-4

電話 045-391-1153

なお、多くの級友の意見もあり機関誌「八紘」は第4号を以て終了することとし、出版経費の残額は関東地区会が受け継ぎすることになりましたのでご諒承をお願いします。

## 新制遠漁第4期会(S26卒) 北晨会開催

茨木 悟 (26エ)

平成14年秋函館に於いて、これを最後のクラス会にしようと全科が集結、和やかに盛大に実施したことは忘れ難い想い出となりました。その折これを最後にといいながら、誰ともなく続けるべしとの声が上がり、遠漁仲間はこれに共鳴し神戸で開催が決まった。翌平成15年10月関西地区に住む他科や後輩も集まって19名が参加、此の時も楽しい一時を過ごした。また翌年は東京にて18名が。もうこれで終わりかと思いきや、次は「みちのく」で気勢を挙げようと田中大氏が幹事役となりお世話をすることと決めた。しかし交通の便や時間的な制約があったり健康面の心配等も有って参加希望者が少なく取り止めとなり、もう一度関西で世話をやれとの声が上がり、1年半振りに5月19日(金)神戸で開催を計画した。

平成18年1月、参加可能者が電話連絡等に依る約20名となり開催案内を此の者たちに発送した。そして、4月末を期限に正確に確認したところ11名となりやや寂しい会を予感した。

「年年歳歳花相似 歳歳年人人不同」

年々歳々 花 相似たり

歳歳年人 人 同じからず

と言う漢詩が頭を過り、これも人間の定めであり、以前に話が有ったこれを最後にしようと言う提案も又むべなるかなと思い知らされた。

開催前日案の定又1名欠席の連絡有り不安が適中した。其れと共に天候も悪化の予想が有り雲が拡がった。しかし、今に至ってジタバタしても致し方無し運を天に託して当日を待つ。

朝を迎えて日が醒めれば予報通り雨が降り、遠方からの参加者の労苦に想いを馳せた。そして午後3時の定刻には全員が元気な姿を見せ、神戸ポートタワー前からのループバスに乗車して市内の観光地巡りに出発、雨中の異国情緒溢れる街並を見物満喫してホテルに入った。

定刻午後6時に宴会場に集まり、写真撮影の後会食を始めた。

始めに故人に對し黙とう、既にクラスの1/3の者が彼の地に逝ってしまったが、在世時の彼等の姿を偲び安らかに眠れと冥福を祈った。そしてまだまだ迎えに来るな、まだまだ早いからと全員で固く約束した。

「今年花落顔色改 明年花開復誰在」

今年 花落ちて 顔色改まり

明年 花開いて 複た 誰か在る

参加した一同、お互いに歳をとって皺も増え白髪の面々、老いが身に染みて感じられてきたが、年年変わらず綺麗に咲き誇る花のようにありたいと願うばかりで、今元気な我々も来る年は誰が健

在で居られるだろうか。はじめに故人達と約束したからまだまだ大丈夫だと信じる一同でした。

ここで遠来の参加者に対し地元の佐多氏から歓迎の挨拶があり乾杯、懇談に入った。

想い起こせば北晨寮時代、皆ヤンチャな元気者、出身地の方言丸出しで賑やかに楽しく過ごしたなー。

「此翁白頭真可憐 伊昔紅顔美少年」

此の翁の白頭 真に憐れむべし

伊れ（これ）昔 紅顔の美少年

或る白髪のお爺ちゃんが嘆いで詠んだ漢詩もまた此の会場の者達の思いか。昔話やら健康、旅行、家族の事等話がはずみ定刻はあっという間、中締めの後、校歌、北晨寮歌、逍遙歌を合唱、往時を懐かしく返り見たり

「貴様と俺とは同期の桜 同じ亀田の庭に咲く

仰いだ夕焼け津軽の海で 男鍛えたおしょろ丸」と「同期の桜」で気勢を挙げた。

そして今年も又

「いつまでも 絶えることなく 友達でいよう

明日の日を夢みて 希望の道を

空を飛ぶ鳥のように 自由に生きる 今日の日は

さようなら また会う日まで  
信じあうよろこびを 大切にしよう 今日の日は  
さようなら また会う日まで  
また会う日まで」

と「今日の日はさようなら」を歌って平素の友情を確かめあい、次回会合までの健康と幸福を願いクラス会を締めくくった。

次いで会場を替えて2次会を実施、次回の予定や幹事役について確かめあったが流石詳細は決定に至らず、適時グループが地域で実施する際に呼び掛け参加可能な希望者がこれに加わる形で堅苦しく無い計画とし柔軟に進めようと話し合った。それにしても、此処に参加した者でもどこかに病みが有るにせよ参加出来る幸せを囁み締めた一時であった。

翌朝、皆スッキリ顔でいいさつ、各自バイキングの朝食を食べ、次回またの再会を楽しみに約束を交わして、それぞれ次の観光や旧知との再会、我が家へ直行など思い思いに散会した。既に雨は上がっていた。

以上。

平成18年6月吉日



前列左より 中里昭一、菅原 巍、高橋貞弘、犬飼俊雄、福田節夫  
後列左より 茨木 悟、山本清一、佐多 進、深谷典雄、山中 熨  
(敬称略)

## 北水同窓会余市支部総会

中多 章文 (62ギ)

平成18年3月18日、10数年ぶり?に余市支部総会が開催されました。総会では、新支部長の選任と支部会則の承認を行い、総会後に余市町内の水明閣で懇親会となりました。満場一致で選出された新支部長川村一廣さん(33ゾ)の就任挨拶と乾杯の発声で懇親会が始まり、途中、近況報告も交えながら会員同士の親睦を深めることができました。新役員と総会参加者は次のとおりです。

総会出席者(敬称略)

小島伊織(23ギ)、内藤政治(23ギ)、松平武敏(28ギ)、林 清(29ゾ)、川村一廣(33ゾ)、宇藤 均(45ゾ)、高橋玄夫(46化)、伊藤俊輔(46ゾ)、山内繁樹(49ギ)、渡辺安廣(49ギ)、全先清道(53ギ)、三宅博哉(59ギ)、中多章文(62ギ)

支 部 長 川村 一廣 (33ゾ)

副支部長 田岸 謹一 (26セ)

宇藤 均 (45ゾ)

幹 事 長 渡辺 安廣 (49ギ)

幹 事 松平 武敏 (28ギ)

中多 章文 (62ギ)

中山 威尉 (平11海)



総会出席者と写真

前列左から 小島(23ギ)、内藤(23ギ)、川村(33ゾ)、松平(28ギ)、林(29ゾ)

後列左から 高橋(46化)、中多(62ギ)、伊藤(46ゾ)、渡辺(49ギ)、宇藤(45ゾ)、  
山内(49ギ)、全先(53ギ)、三宅(59ギ)

## 北水マンドリンクラブOB・OG総会 函館河畔亭で開催

草刈 宗晴 (39ゾ)

北水マンドリンクラブOB・OG会による集会が6月17日土曜日、新緑の眩い函館湯の川にて開催されました。クラブの存在していた頃に活動を

支援する目的で結成されたOB・OG会の活動は停止していましたが、昨年有志による集会が札幌(1月)と函館(7月)で開催され、これらの席上、全会員が一同に会する懇親集会を望む声が出されました。函館集会に参加された北水同窓会幹事長であり、クラブOB会員の猪上徳雄教授(41セ)から平成19年に水産学部が創基100周年に当たり、5月に記念行事が計画されていることが知

らされました。参加者からこの機会に記念演奏会の提案がされ、そこで函館在住のOBらによる幹事会が結成、行動が開始されたのでした。北水マンドリンクラブは昭和34年に同好会、36年にクラブ結成、約27年間に亘って第10回の定期演奏会や施設の慰問演奏など活動し続け、この間に部員97名を輩出していますが、残念ながら現在ありません。

今回の集会では19年に向けた記念演奏と親睦集会を目標に、まずOB・OG会の再発足、有志による合奏の可能性などを確認し合うことでした。予めアンケート調査を行った結果、入会者50名、返信なし19名、住所不明で未連絡者9名、残りが辞退者、物故者で、会が正式に再発足することとなり、また合奏希望者が10名でした。

本会は1泊2日の日程で開催されました。当日のスケジュールはPM2時に受付、2時半から合奏リハーサル、3時半演奏発表、4時半総会、6時半懇親会と内容の詰まったものでした。

会場には2時前から参加者が集合し始め、ロビ

ーでは久しぶりで再会する同期生、先輩・後輩との挨拶、会話で和やかなムードに包まれていました。出席者は特別会員3名、会員21名でした（写真1）。演奏会場となった2階の舞台付きの大広間には総勢10名による演奏（写真2）が行われました、曲目は定期演奏会で幕開きに演奏していた「都ぞ弥生」で始まり、クラブの愛唱曲でもあった軽快な旋律の「故郷を望みて」（ロシア民謡）、昭和38年の第一回演奏会で演奏した重厚・美しい旋律の「序曲第1番イ長調」（K.ヴェルキ）、日本調の侘び、寂びの詰まった「古戦場の秋」（小池正夫）、♪あした浜辺をさまよえば・・・で始まる「浜辺の歌」（成田為三）、終わりに再び「都ぞ弥生」の演奏に合わせて全員で合唱、1曲だけ木村昇氏（40セ）が指揮しましたが、他の曲は指揮なしで演奏。途中トチリの箇所も度々ありましたがますますの演奏でした。このほかに池島博之氏（45セ）による18世紀のチェンバロ・ソナタ編曲の「ソナタト長調」（D.スカルタッティ）、19世紀のロマン派ギターのオリジナル曲で



写真1 北水マンドリンクラブOB・OG会総会出席者

前列左から；宮本(表)茂子(42セ)、佐々木(山本)瑳智子(42セ)、

源(柳瀬)雅子(41セ)、草刈宗晴(39ゾ)、藤岡綾子、藤岡敏彦(アウロラOB)、

鈴木進(アウロラOB)、桑原茂鶴(39ギ)、赤羽光秋(39工)、守村禎太郎(42ギ)

2列目左から；金澤克(40セ)、谷藤進(41セ)、鷺足将成(41ギ)、兼崎英勝(41セ)、

仲谷一宏(43ゾ)、三浦護(42セ)、河上雄二(46化)、木村昇(40セ)

3列目左から；小野浩(59食)、池島博之(43食)、竹内忠一(40セ)、岡崎千寿(42ギ)、

古館和幸(59ギ)

ある「愛の歌」（J.K.メルツ）、20世紀のモダンタンゴをアレンジした「ブエノスアイレスの春」（A.ピアソラ）等のギター独奏があり、さすがに本場で技術を磨いているだけに素晴らしい演奏内容でした。

総会では守村禎太郎（42ギ）の司会・進行により役員・規約、会計報告、平成18年度予算と活動報告が全員一致で承認され、平成19年度予定の記念同窓会の内容について若干討議しましたが、事務局に一任され、後日提案することとなりました。

2階の大広間で始まった懇親会で草刈宗晴会長（39ゾ）の挨拶、現役クラブ時代にスポンサーでアドバイザであられた特別会員の藤岡敏彦氏（北大アウロラOB）の挨拶、特別会員の鈴木進氏（北大アウロラOB）による乾杯の音頭で宴会に入りました。守村氏の終始切れの良い司会・進行

により、出席者全員が指名され、クラブの思い出を語ることとなり、今だから話せる初公開の談話が宴を盛り上げていました。2時間も瞬く間に経過、記念撮影、次いで木村氏の発声により明治45年度寮歌・・・が高らかに奏でられ、赤羽光秋氏（39エ）による三本締めで中締め。

9時からほぼ全員集合で2次会が1階のカラオケバーで開催されました、特別に用意された料理の数々と充分な飲み物、学生時代には決して味わえぬ美食・飽食の時間でした。各人による当時の懐かしい歌が次々と披露される中、思い出話、近況にも花が咲き、予定時間を大幅に超過、クラブ活動を通して築かれた交友、先輩・後輩の絆が一層深まつことでしょう。翌朝、皆で来年の記念演奏会の成功を誓い、三々五々帰路に着きました。



写真2 マンドリン演奏の風景—指揮者:木村  
左1列目から;草刈、兼崎(1stM)、桑原(2ndM)、鶴足、赤羽、守村(Md)  
後列左から;池島、仲谷、鈴木(G)



## 昭和32年卒 同期会（札幌）

杉田 哲夫（32エ）



七十うん歳の少年22名が7月3日支笏湖畔の秘湯丸駒温泉に各地から参集した。ちなみに32年度

卒の内訳は大学の名簿からギ10、エ30、セ21、ヨ12、物故者16、計89名である。

丸駒温泉は大正4年に発見、当時は秘境の湯であったが今も秘湯ではある。湖底から湧きでる豊富な湯量は湖面と湯面が同水位と言う天然野外（露天）風呂の趣き、文献に拠れば大正の頃の北

大の林学、水産の学生、教授等の足跡も記録されている名湯である。

22名はアトランダムに座し、幹事会長の島中君の開会の辞と、亡き同期生の冥福を祈り黙祷のあと軽妙、洒脱な司会、今井君の音頭で宴が始まった。地酒（丸駒初太郎）、地元名物チップ料理、各位のユーモアあふれる自己紹介のあと、北晨寮逍遙歌、都ぞ弥生1、2番の放歌高吟、飄々と歌は静かな湖面に流れた。旅館内の別室で二次会、心行くまで50年前の往時を語り50年の歴史を分かち合うには余りにも時間は少ない。

夜が明けた直ぐ側に湖面があった。茫洋と広がっていた。上半分を霧に隠した名峰樽前、恵庭岳が白樺と榛松の間の視界に入る、それは一幅の墨絵の様、平成の幽玄の境が今そこにある、そんな世界に誘導させられた世紀の秘湯を後に、二日目は札幌芸術の森、藻岩山から一望するさっぽろの街、それは我が青春を凝縮した街でもあるその想

いに静かに涙し、希望に満ちた将来を開花せんと馳せた北大の構内を散策、角帽に紅顔を隠した50年前の学生時代の自分にタイムスリップ。

すすき野のやん衆酒場北斗で酒宴、美酒と北のさかな達で舌鼓、酒の力を借りて歌い残した都ぞ弥生3、4、5番を絶唱、50年ぶりに瓔珞みがくを、二日間かけて都ぞ弥生の全詩を放吟出来これにて会は完了した。

22名参加のうち12名がゴルフも興じることが出来た。この素晴らしい演出をしてくれた札幌在住の島中、今井、工藤、池田、寺尾の諸君のご苦労に心から感謝、2年後の次回は函館在住の高野、横堀両君の発案で函館でやることになった。函館で逢おう！、次回も黙祷されないぞ！が参加者全員の約束である。

決して人数の増加の無い宿命の同期会、今回参加出来なかった諸君の次回の参加を呼びかけつつ、報告を終わります。



前列左から 安藤省吾、牧野一弥、小田利勝、島中貞夫、小橋保智、杉田哲夫、  
寺尾俊郎、高野和則、  
中列左から 川村康司、伊藤 準、梅室正雄、藤森達夫、増田清岩、小泉 守、  
武藤 瑛、今井 輝、池端宏之、  
後列左から 横堀楠生、山井 喬、石田信正、池田正利、工藤糾夫

## — ♦ 追 悼 ♦ —

**井 内 先 生 を 悼 む**

柚木 一男 (18ギ)

本会名譽会員井内三次先生には、本年1月11日満100歳でご逝去になりました。

我々遠洋漁業科の連中は、在学中から卒業後、ご逝去に至るまで何かと格別のお世話になりました。先生は海洋保安部ならびに大阪港長を務められ、現在の堺市にある関西港湾サービスを設立されて会長を努められ大変地域にも貢献されました。  
ご遺族は 大阪府堺市竹城台3-11-2  
井内哲義様です。

**長谷部優君 (平2ゾ) 追悼**

檜垣 直幸 (平2ギ)



平成18年2月27日、同期の長谷部優君の訃報が入ってきた。

彼とは、同期の結婚を祝う会で、昨年冬に函館で会ったばかりである。別れ際に、「次はお前の結婚式の時に

集まろう！」と冗談ではやしたてたのだが、それが、全く正反対なことで集まることになろうとは、その時は誰も想像できなかったに違いない。もちろん、本人すらも。

学生時代は、北晨寮で一緒にいたが、学科が違ったので、むしろ学業よりは、それ以外のことでの付き合いが多かった。まじめな性格で、ともすれば暴走しがちな我々の引き止め役になっていたことが多かったような気がする。もっともその引き止め役も、結局はお酒が好きなので、飲んだりしてスパークすると、さらに大変なことになっていたわけなのだが・・・

ダイビングも彼を語るのに欠かせないキーワードである。濃いメンツを従えて、車にタンクを積んでダイビングに行く姿をよく見かけたものである。さすがに潜る前日などは、乱入してもこっぴどく怒られたものである。

結局、最初の仕事は、そのダイビングを生かせる仕事に就き、数年前から、地元の秋田県庁に勤めることとなった。

学校を離れてからも、メールや年賀状のやり取りはけっこうしており、ダイビングやロッククライミングだの、アウトドアな話題満載だったにもかかわらず、突然のピリオド。

彼の早すぎる死が、我々にどんなメッセージを残してくれたのか、私にはまだよくわからないし、そもそもそんなものは無いのかもしれないが、きっと、もっと大切に強く生きろということかもしれないよう気がする。

優秀な人材だっただけに、本当に、これからという時に残念な気持ちでいっぱいです。とにかくゆっくりお休み下さい。ご冥福をお祈り致します。

**肥後モッコス坂田章雄が死んだ  
—彼との不思議な話四つ—**

島崎 清康 (17ギ)

平成17年12月27日脳梗塞で死去したと未亡人から連絡をうけた。

17年4月29日のクラス会には元気で参加した。まさかこう早く死ぬとは…！95才～100才のおぢいチャンがゴロゴロしている時代に83才では早死。なんで死んだバカ！

坂田章雄とのそもそももの関係は、名簿順でのため席がすぐとなり、ここから御縁がはじまる。

彼は英語が秀才で私は大助かり（？）留年することなく進級、第2次世界大戦出陣で繰り上げ卒業させられ軍隊にはいる。…するとそこに肥後モッコスがいた（彼は熊本県出身・私は沖縄県出身）

#### ◇不思議な話 第1

全国の大学生等が17年10月1日、それぞれの部（軍）隊に入営。私は熊本第13連隊の留守第16部隊へ入営翌2日から大野の原練兵場で訓練がはじまつた。約1～2週間後の訓練の休憩時近くで、同じ休憩中の部隊を見るともなく見るとそこに坂田章雄に似ている男がいる。近づいて見ると間違ひなく坂田！二人ともビックリ「ヤー・ヤー」「ヤー・ヤー」。

「今度の休日には映画を見にゆこう」と約束。同じ部隊の私は第9中隊、坂田はとなりの第11中隊というわけでチョイチョイ顔を見合せた。監獄の方がましだといわれる地獄の軍隊の休日はヤッと人間として生きている解放感の味わえる瞬間の時間、二人共映画館へ向う。

ところがたのしいはずの解放感は一瞬にして暗闇の世界。營庭を出ぬ前から一つ星の新兵のかなしさ 右を見てもケイレイ、左を見てもケイレイ。營門を出てホッとしていると後から古兵がわれわれ二人を追いこす。それにケイレイ。それじゃ早足して進むとそこに別の古兵が歩いていてケイレイ。ヤッと映画館に到着するとそこにまた別の古兵が屯していてケイレイ・ケイレイ、映画館にはいると古兵が一杯ケイレイ・ケイレイ・ケイレイ…暮間に横を向くと、右にもケイレイ・左にも古兵ケイレイ。トイレに行く途中ケイレイ帰る途中またケイレイ。見た映画の中身はすっかり忘れ兵営までの帰途またケイレイ・ケイレイ。バカバカシイ映画さえ自由に見られない。

「次からの休日は映画はやめよう。俺の家にゆこう」と坂田はいう。

日本の軍隊は「ケイレイ」で統括されているらしい。

#### ◇不思議な話 第2

次の休日坂田邸へゆく。「ここが我が家」「オイ・オイここが坂田の家か？おれは三年前（昭和14年7月25日頃）甲子園を目指しての全国高校（当時中学）野球大会で第一次予選の南九州大会参加、水前寺球場での試合にのぞむため、水前寺公園の中を抜けこの坂田の家の門前を通った」。

手をさしのべれば坂田の標札にふれるその所をバットをかついで君の家の前を通っていた。「そういうことがあったのか、不思議なことがあるもんだなー」と坂田。

休日の度に坂田邸へおじまし、御飯13杯味噌汁12杯計25杯、その2時間前に部隊で丼めし1杯たべたばかり、よくも喰いも喰ったもの。くい盛りの弟英見君（旧制五高生）、英四郎君（旧制中学生）、五男春男君（小学生）分を二人で競って喰らってしまった。

終戦後この事をおわびと感謝をクラス会でいうと「その当時おやは農業協同組合長をしていたので、お米は自由に手にはいった」ときいてホッとした。

#### ◇不思議な話 第3

そうこうしている内に幹部候補生の試験がせまってきた或る日「おれは飛行機に乗る。陸軍熊谷（埼玉県）飛行学校へゆく」と坂田はいう。「やめろ、死ぬぞ。われわれは軍人しかも戦争中いづれは戦死する。それはそれとして少しでももう少しでも生きていようよ、飛行兵は消耗がはげしい。やめろ。」と私。それでも坂田は熊谷飛行学校へいった。

第二次世界大戦の日本の戦果は極めて悪くアリューシャン列島のアツツ島の日本軍約3000人玉砕、ガダルカナル島全滅、ビルマ戦・ヒリッピン戦敗北、海軍は最後の望みをかけてのミッドウェー海戦全滅、いよいよおれも飛行兵にならねばと陸軍下志津飛行学校（千葉県）に学ぶ。坂田とは学校は違うが共に航空将校、同じ道を歩んでいた。

#### ◇不思議な話 第4

平成17年4月29日のクラス会の時に、横浜駅近くの崎陽軒入口前の交叉点、会場案内で添田と二人で皆を待っていた。坂田は私を見つけると手を大きく振り、私が近づくと両手で私の手を強くにぎりしめてはなさない。なかなかはなさい。一年振りの疎遠の情をしめしているのだろうと軽く思っていたがあれは「お別れのあいづ」だったのか。

以上

## 木村喬久先生のご逝去を悼む

吉水 守 (47食)



先生の本学部在籍中のご経験と人となりを紹介したいと存じます。

木村喬久先生は、昭和3年3月26日に札幌市で誕生され、その後、幼・青年期を青森県南津軽郡平賀町で過ごされました。昭和33年に北海道大学水産学部の前身である函館水産専門学校を卒業後、ただちに同校の講師に就任され、北海道大学水産学部講師、助教授を経て、昭和52年に教授に昇任されました。平成元年からは水産学部長を務められ、平成3年の停年退官後は北海道大学名誉教授として後進の指導に努めてこられました。この間、先生は食品微生物学、食品衛生学、海洋微生物学、魚類病原微生物学と幅広い分野の研究に従事され、その研究成果は多くの学術論文・解説・著書に表されています。

木村先生の研究活動の中で特筆される点は、わが国における魚類病原微生物学の基礎の確立と発展に大きく貢献されたことにあります。その主な功績は、昭和44年のサケ科魚類のせっそう病原因菌の亜種の発見・命名に始まり、サケ科魚類に甚大な被害をもたらしている病原ウイルス、伝染性造血器壊死症ウイルスやサケ科魚類の難病として恐れられている細菌性腎臓病原因菌を我が国で最初に分離されました。昭和53年には、サケ科魚類の病原ヘルペスウイルスを発見、本ウイルスが魚類では最初の腫瘍原性ウイルスであることを明らかにされました。さらに、養殖ヒラメに猛威を振るう新しいウイルスの発見・命名とその防除対策を確立され、平行してサケ科魚類の正常腸内細菌

叢の解明や魚類感染症の迅速診断法の開発、魚類病原ウイルスの疫学調査、ビブリオ病原因菌の分類ならびに血清型別、ウイルス病の防除対策技術の開発等、魚類増養殖の障壁となっている魚病問題の解決に努め、多くの貢献をしてこられました。これらの成果はいずれも世界に誇れるもので、退職時に研究成果の集大成として国際学術シンポジウム『王子セミナー』を主催されました。

教育面では上記の研究を通じて幾多の優れた人材を育成し、国内外に送り出してこられました。また、先生は学生の名前をなかなか覚えられなかった一方で、一度覚えた学生あるいは国内外の研究者とは生涯を通じてお付き合いをされ、常に暖かく見守ってこられました。さらに、実験器具機材、電気関連機器、写真・映像機器等に詳しく、その好奇心は多岐にわたり、物事を多方面から見ることの重要性を教えて頂きました。

社会活動として、先生は優れた統率力を発揮され、北海道大学の水産学部長を始め日本魚病学会長、日本水産学会理事、中央薬事審議会委員他、多くの要職に就かれ、社会に貢献してこられました。これらの素晴らしい業績に対し、日本魚病学会賞、アメリカ水産学会スネースコ賞、北海道科学技術賞、函館文化賞、青森県褒賞はじめ多くの賞が授与されています。

ここに改めて木村喬久先生の足跡を偲ぶとともに、木村先生の魅力的な人柄が、先生を知る多くのご友人ならびに先生の指導を受けた学友に永く語り継がれることと思います。

### 会員死亡通知

井内 三次 (名誉会員)	平成18年1月11日 逝去
	ご家族様より
渋谷 啓一 (8ヨ)	平成18年2月10日 逝去
	ご家族様より
佐藤 正五 (13ギ)	平成18年4月4日 逝去
	ご家族様より
菊池 一彦 (14ギ)	平成18年2月9日 逝去

	荒木英二 (14ギ)	様より
喜田 真 (15セ)	平成18年 2月 7日	逝去 ご家族様より
松野 昇一 (15セ)	平成18年 3月 6日	逝去 ご家族様より
相馬 秀郎 (16ヨ)	平成17年11月27日	逝去 山田 正 (16ヨ) 様より
高島 平蔵 (16ヨ)	平成17年10月11日	逝去 ご家族様より
西谷 喬助 (16後セ)	平成18年 3月19日	逝去 田中 修 (28セ) 様より
石田 力一 (16後ヨ)	平成18年 2月26日	逝去 久保達郎(16後ヨ)様より
内田 浩一 (17ギ)	平成18年 3月 2日	逝去 添田 恒 (17ヨ) 様より
坂田 章雄 (17ギ)	平成17年12月27日	逝去 土屋 要 (17ギ) 様より
添田 恒 (17ヨ)	平成18年 5月13日	逝去 土屋 要 (17ギ) 様より
松尾 三男 (18ヨ)	平成18年 2月28日	逝去 ご家族様より
吉田 要範 (20ゾ)	平成17年 8月 2日	逝去 ご家族様より
鈴木 英次 (23ギ)	平成18年 2月16日	逝去 服部晴夫 (23ギ) 様より
森田 勝男 (24ギ)	平成17年12月23日	逝去 小林秀夫 (24ギ) 様より
宮本幸次朗 (24セ)	平成17年 9月13日	逝去 ご家族様より
岡崎 馨 (25エ)	平成18年 3月12日	逝去 増田紀義 (25エ) 様より
元岡 興平 (25エ)	平成18年 5月 8日	逝去 増田紀義 (25エ) 様より
豊嶋 一志 (25ゾ)	平成17年 3月	逝去 吉岡 博 (24ギ) 様より
小野田 隆 (26教ギ)	平成18年 2月22日	逝去 伊藤芳郎(26教ギ)様より
石田 重雄 (26セ)	平成17年12月	逝去
椎名英二郎 (26教セ)	平成17年 8月	逝去
西野耕一郎 (26教ゾ)	平成18年 2月28日	逝去 土田健治 (35ゾ) 様より

梶野 鷹次 (28セ)	平成17年11月26日 逝去 ご家族様より
荒木久二郎 (29ギ)	平成18年 4月10日 逝去 小野 斎 (29ギ) 様より
広瀬 守 (29ギ)	不明 ご家族様より
猪狩 泰 (29エ)	平成18年 7月 4日 逝去 荒木喜三郎(29エ)様より
栗山 貞夫 (30エ)	平成18年 1月 9日 逝去 ご家族様より
勝田 順介 (32エ)	平成18年 4月 9日 逝去 村上 恵 (32エ) 様より
藤本 衡 (33エ)	平成17年 8月 逝去 ご家族様より
荒木 富夫 (34ギ)	平成14年 8月 9日 逝去 ご家族様より
川端 一寿 (34セ)	平成18年 3月 3日 逝去 ご家族様より
矢島 満 (35セ)	平成18年 1月31日 逝去 平野亮一 (35セ) 様より
丸田 博一 (40ギ)	平成13年 7月 7日 逝去 佐藤宣明(40ギ)様より
田中紀久雄 (52ギ)	平成18年 2月 3日 逝去 北出 弘 (52ギ) 様より
石森 則人 (56化)	平成16年11月14日 逝去 小山内哲也(56化)様より
長谷部 優 (平2ゾ)	平成18年 2月27日 逝去 柴田 理 (55ギ) 様より

## - ◻ 学 内 ニ ュ ー ス ◻ -

### 学位取得者と論文題目

[北海道大学博士（水産科学）H18.3.24]

#### 課程博士

古賀 和人：稀少種シナイモツゴの減少要因に関する保全遺伝学的・生態学的研究－特にシナイモツゴとモツゴの同所的集団における個体群動態のメカニズム

## ムー

- 細野 隆史：北海道南部太平洋の白尻沿岸に出現するワレカラ類の生態学的研究
- 松浦 勉：戦後の沖底（2そうびき）における経営構造の変化に関する研究
- ムクティ ザイヌッディン：Predicting Potential Habitat Hot Spots and Migration Pattern for Albacore Tuna, *Thunnus alalunga*, in the Northwestern North Pacific using Satellite Remote Sensing and GIS  
(衛星リモートセンシングと地理情報システム (GIS) による北西北太平洋におけるビンナガマグロ *Thunnus salalunga* の潜在生息域ホットスポットと回遊パターンの予測に関する研究)
- 森 賢：スルメイカ冬季発生系群の初期生態と資源変動機構に関する研究
- 柳本 卓：ベーリング海アリューシャン海盆におけるスケトウダラの資源生物学的特性
- 渡邊 一仁：LCA (Life Cycle Assessment) 法による漁業の環境影響評価に関する研究
- 天野 春菜：Immunochemical and Biochemical Studies of Multiple Vitellogenins and their Related Egg Yolk Proteins in Grey Mullet (*Mugil cephalus*)  
(ボラの複数ビテロジエンおよび卵黄蛋白質に関する免疫生化学的研究)
- 大塚 周二：エゾアワビ  $\beta$ -1,4-マンナンアーゼの単離とcDNAクローニングおよび大腸菌発現系の確立
- 川越 力：褐藻 フシスジモク *Sargassum confusum* の増殖生物学的研究
- 阪尾 寿々：サクラマス四倍体の誘起ならびに発生特性に関する研究
- 申 鉉日：ホタテガイ外套膜由来コラーゲンの性状・特徴および利用に関する研究
- ジーンリンパー インディ：Marine algae of Bali, Lombok, and Sumbawa Island, Indonesia  
(バリ、ロンボク、スンバワ島 (インドネシア) の海藻)
- 鈴木 賢一：アワビ・セルラーゼHdEG66およびEdEG53の一次構造と機能に関する研究
- バラカット ソリマン モハメド マフウド：A New Technology for Fish Preservation Using Electrolyzed NaCl Solutions and Essential Oil Compounds  
(電解食塩水と精油成分を併用した水産物の新規保存技術)
- 朴 恩貞：Genetic polymorphism within *Porphyra yezoensis*-related species (Bangiales, Rhodophyta) from Japan and Korea detected by CAPS analysis  
(CAPS 法による日本と韓国のスサビノリ近縁種の多型解析)
- 降幡 充：ニジマスのヘルペスウイルス病に関する研究
- 安井由美子：共役トリエン酸の抗腫瘍効果と作用機構の解明
- 山本 竜彦：乳酸菌 *Carnobacterium maltaromaticum* Sur 602 の產生する抗リステリア物質に関する研究
- 袁 春紅：Seasonal Variation and Species-Specificity of Several Chinese Freshwater Fish Myosin  
(数種中国淡水魚の筋肉たんぱく質の特性と季節変化)

## 会員異動

(平成17年12月1日から平成18年6月30日)

## 定年退官

18. 3. 31 山内 瞬平 海洋応用生命科学部門  
(44ゾ) 増殖生物学分野
18. 3. 31 関 伸夫 海洋応用生命科学部門  
(42修化) 生物資源利用学分野

18. 3.31 横木 勇 海洋応用生命科学部門  
 (特) 増殖生物学分野  
 18. 3.31 米田國三郎 海洋応用生命科学部門  
 (40工) 増殖生物学分野  
 18. 3.31 酒井 信 海洋応用生命科学部門  
 (特) 安全管理生命科学分野

(新規採用)  
 18. 4. 1 袁 春紅 海洋応用生命科学部門  
 (平18博生) 生物資源化学分野助手  
 (新規採用)

### 昇 任

18. 4. 1 矢部 衛 海洋生物資源科学部門  
 (51ゾ) 海洋生物学分野教授  
 (助教授から)  
 18. 4. 1 築田 満 海洋生物資源科学部門  
 (45化) 海洋環境科学分野教授  
 (助教授から)  
 18. 4. 1 志賀 直信 海洋生物資源科学部門  
 (44ゾ) 海洋生物学分野教授  
 (助教授から)  
 18. 4. 1 関 秀司 海洋応用生命科学部門  
 (57化) 海洋環境科学分野助教授  
 (講師から)  
 18. 4. 1 高津 哲也 海洋生物資源科学部門  
 (63ギ) 資源生物学分野助教授  
 (助手から)  
 18. 4. 1 Bower Jone Richard  
 海洋生物資源科学部門  
 (9博増) 海洋環境科学分野助教授  
 (北方圏フィールド科学  
 センター助手から)

( )は女子の内数 MC : 大学院修士課程  
 DC : 大学院博士後期課程

### 水産海洋科学科

N T T データ(株)	1名
旭川市役所	1名
乗馬クラブ クレイン	1 (1) 名
税理士専門学校	1名
大丸藤井(株)	1 (1) 名
日清丸紅飼料(株)	1名
函館市役所	1 (1) 名
深川市役所	1名
三井住友銀行	1名
(株)C G C ジャパン	1名
(株)アドヴァンスト・ソフト・エンジニアリング	1名
(株)ソフトウェアサービス	1名
(株)ポーラ化粧品本舗	1名
MC北大水産科学院	8 (3) 名
MC北大環境科学院	13 (5) 名
MC北大医学研究科	1名
MC東京大学農学生命科学科水圈生物	1 (1) 名
MC東京大学理学系研究科	1名

### 着 任

18. 4. 1 工藤 秀明 海洋生物資源科学部門  
 (3ゾ) 資源保全管理戦略分野助教授  
 (新規採用)  
 18. 4. 1 平譯 享 海洋生物資源科学部門  
 (特) 海洋資源計測学分野助教授  
 (国立極地研究所助手から)  
 18. 4. 1 笠井 久会 海洋応用生命科学部門  
 (平12資) 海洋生物工学分野助手

海洋生産システム学科  
 JA高知 1名  
 財務省東京税関 国家II種 1名  
 札幌トヨベット(株) 1名  
 中外製薬(株) 1名  
 東洋水産(株) 1 (1) 名  
 ニイウスコー(株) 1名  
 ニチロ(株) 1名  
 日本通運(株) 1名  
 ノーザンファーム 1名  
 北海道警察 2名

マイクロテクノロジー(株)	1名	(財)新日本検定協会	1 (1) 名
和恍フューチャーズ	1名	(財)日本食品分析センター	1 (1) 名
(株)J T B 北海道	1名	(財)北海道薬剤師会公衆衛生検査センター	1 (1) 名
MC 北大水産科学院	12 (2) 名	サンダイヤ(株)	1名
MC 北大環境科学院	5 (2) 名	すかいらーく	1名
MC 北大農学研究科	1名	セイコーマート(株)	1 (1) 名
MC 東北大学農学研究科	1名	第一生命保険総合会社	1 (1) 名
		ベル食品(株)	1 (1) 名
海洋生物生産学科		北海道キヨスク(株)	1 (1) 名
(有)山下水産	1名	マリンフーズ(株)	1名
J I C A 青年海外協力隊	1名	森永乳業(株)	1名
網走市役所	1名	MC 北大水産科学院	30 (5) 名
伊藤忠飼料(株)	1 (1) 名	MC 北大環境科学院	3 (2) 名
川本製作所(株)	1名	MC 北大農学研究科	1名
サンワサプライ(株)	1 (1) 名	MC 北大医学研究科	1名
大日本住友製薬(株)	1名		
八景島水族館	1 (1) 名	水産科学研究院修士課程	
福島県庁	1名	E N 大塚製薬	1 (1) 名
丸水札幌中央水産(株)	1 (1) 名	NTT コミュニケーションズ(株)	1名
八雲町漁業協同組合	1名	NTT コムウェア(株)	1名
理研ビタミン(株)	1名	アークランドサカモト(株)	1名
(株)オーディンフーズ	1 (1) 名	アサマ化成(株)	1 (1) 名
(株)久保田商店	1 (1) 名	味の素冷凍食品(株)	1 (1) 名
MC 北大水産科学院	30 (7) 名	味の素(株)	1名
MC 北大環境科学院	4 (1) 名	遺愛女子高等学校	1 (1) 名
MC 東北大学大学院医学系研究科	1名	岩手県庁	1名
MC 東京大学新領域創成科学研究科	1 (1) 名	ウテナ(株)	1 (1) 名
MC 京都大学大学院理学研究科	1名	カゴメ(株)	1 (1) 名
MC 京都大学地球環境学舎	1 (1) 名	兼松(株)	1名
MC 大阪市立大学理学研究科	1名	カメラマン助手	1名
MC 広島大学生物圏科学研究科	1名	キューピー(株)	2名
		協同飼料(株)	1名
海洋生物資源化学科		共和コンクリート工業(株)	1 (1) 名
NTT西日本	1名	協和発酵フーズ(株)	1 (1) 名
(株)ADEKA	1 (1) 名	クラブツーリズム(株)	1 (1) 名
アサヒビール(株)	1名	小林製薬(株)	1 (1) 名
王子サークル(株)	1名	(財)新日本検定協会	1名
大塚製薬(株)	1名	(財)日本食品分析センター	1 (1) 名
カゴメ(株)	1 (1) 名	サニーヘルス	1名
キッコーマン(株)	1名	滋賀県庁	1名
(財)化学物質評価研究機構	1 (1) 名	スター・バックスコーヒージャパン(株)	1名

空知信用金庫	1 (1)名	(株)N T T ドコモ	1名
竹田食品(株)	1 (1)名	(株)オーディンフーズ	1名
田辺製薬(株)	1名	(株)菊水	1 (1)名
中外製薬(株)	1 (1)名	(株)ゼロイン	1 (1)名
月島食品工業(株)	1名	(株)日本海洋	1名
月星海運(株)	1名	(株)日本水産	1名
デイジー食品工業(株)	1名	D C 北大水産科学院	14 (3)名
東北水産試験場 (非常勤)	1名	D C 北大環境科学院	2 (1)名
東洋水産(株)	1名	D C 北大理学研究科	1名
(独)農林水産消費技術センター国Ⅱ種	1 (1)名	D C 京都大学大学院生命科学研究所	1名
富永貿易(株)	1名	D C 九州大学大学院総合理工学府	1名
富山県庁	1名		
豊田通商(株)	1名	<b>水産科学研究院博士後期課程</b>	
ニチロ(株)	2 (1)名	三重県水産高等学校	1名
日本化学工業(株)	1 (1)名	学校法人光産業創成大学院大学	1名
日本たばこ産業(株)	1名	共和コンクリート工業(株)	1名
日本ミシュランタイヤ(株)	1名	東洋精糖(株)	1名
農林漁業金融公庫	1 (1)名	日本水産(株)中央研究所	1名
函館市役所	2名	北大水産科学研究院	1 (1)名
函館山ロープウェイ(株)	1名	宮城県庁	1名
日研フード(株)	1 (1)名		
不二製油(株)	1名		
富士通B S C	1名		
ホクレン農業協同組合連合会	2 (1)名	<b>有朋自遠方來不亦樂乎</b>	
北海道漁業協同組合連合会	1 (1)名	(平成18年2月～平成18年7月)	
北海道銀行	1名	(敬称略)	
北海道区水産研究所	1 (1)名		
まるは(株)	1名	<b>北水同窓会</b>	
三浦工業(株)	1名	吉田 清 (15歳) 5/1	
三井海洋開発(株)	1名		
三菱自動車(株)	1 (1)名		
ヤマサ醤油(株)	1名	<b>海洋生物工学 海洋分子生物学 (旧水産高分子化 学)</b>	
ヤンマー(株)	1名	清水映里 (平13資) 2/24、鈴木治正 (平15資) 3/3、 横本敬紀 (59化) 3/20、千葉 智 (平元化) 4/21	
楽天(株)	1名		
リベラ(株)	1名	<b>育種生物学 (旧水産植物)</b>	
菱食リカ一(株)	1名	松永 淳 (平15生) 3/25、小谷友美 (平16生) 3/25、鈴木隆一 (平11生) 6/5、古谷 蘭 (平16	
レインズインターナショナル(株)	1名	生) 6/10、進藤雅紀 (平16生) 6/1、甲斐友規 (平 14生) 5/2、三島康裕 (平14生) 5/19	
ロードス進学会	1名		
六花亭製菓(株)	1 (1)名		
ワタミ(株)	1名	<b>生物資源利用学 (旧食品化学第一)</b>	
(株)i D	1 (1)名	島田千里 (平9食) 2/24、佐藤暁之 (平10食) 3/2、	

木村 稔（61食）4/20、上野利之（平13資）6/9、  
小野世吾（平10食）5/29、関川千里（平11食）  
5/29、田中利幸（平16資）5/29

**海洋環境物理学（旧北洋研海洋環境）**

植原量行（平5ギ）6/1、岸元祐二（平15海）7/21、  
伊藤 孝（平15海）3/25、今村伸之（平11海）3/6

**資源生物学（旧資源生物学講座）**

常田 悠（平16生）3/25

**海洋生物工学・海洋応用生命学（旧微生物学）**

佐々木政則（43食）2月、宮西勝弘（52食）3月、  
赤沢典昭（62食）3月、鈴木裕子（54食）4月、  
中村昌毅（54食）5/15、増田悠輝（平13海）6月

**海洋生物学講座（旧浮游生物学講座）**

雑賀 修（53ゾ）2/9～2/10、小島守之（42ゾ）  
2/13、小山章夫（42ゾ）2/13、田中庸央（42ゾ）  
2/13、山田雄一郎（平9ゾ）3/7、河村章人（37  
ゾ）4/4、坂井雄志（平8ゾ）4/15、雑賀 修（53  
ゾ）5/22～5/24、山田雄一郎（平9ゾ）5/29～  
5/30、水上 碧（平18海）5/29～5/30、高橋孝三  
(47化) 6/1、町田龍二（平11修増）6/1、山田  
智（58ゾ）6/8～6/10、雑賀 修（53ゾ）6/20～  
6/21、川村章人（37ゾ）7/10、簗 熙先生（特）  
7/13、山田 智（58ゾ）7/13、谷村 篤（50ゾ）  
7/14、谷村章人（37ゾ）7/14

**表紙写真説明**

平成16年3月、大学院水産科学研究科当時に新築になったマリンフロンティア研究棟（2階建て延べ約1000平方メートル）に続いて（第283号表紙）、平成18年3月に大学院水産科学研究院として最初の新築棟が表紙写真にあるマリンサイエンス創成研究棟（2、3階部分が共同研究目的等で使用できる共用スペース）である。マリンフロンティア研究棟は学内の共同研究や大学と企業との共同研究を推進し、新産業の創成や地域産業・経済の活性化に貢献することを目的に建設され、共用スペースとして使用している。マリンサイエンス創成研究棟も同様に共用スペースとして活用されるが、現在は、特に大学院の国際化を推進するために先端的科学研究スペースとして活用している。実際には、21世紀COEプログラムの主たるプロジェクトの研究推進のために使用している。

特に、今回の新築にあたっては、函館市が大学の設備充実のために自治体として支援する全国初のケースとなる合築方式で建設され、1階部分の一部を「函館市産学官交流プラザ」として水産・海洋に関する産学官連携の拠点施設として活用するもので、平成18年4月から共用を開始している。

## 《編集後記》

平成18年度の「親潮」第1号（通算287号）をお届けします。今年度は水産学部の学科改組が行われました。新しい水産学部の組織を掲載しましたが、詳細は水産学部ホームページ（<http://www.fish.hokudai.ac.jp>）にて観覧ください。また、同窓会のホームページにも概要が掲載されておりますのでご覧ください。

次号、平成18年度第2号の原稿締め切りは平成19年1月16日を予定しております。会員の皆様には「親潮」に多くの原稿をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

（編集幹事 平石智徳）

### 親潮投稿規定

#### 1. 掲載文の種類と文字数などの制限

- (1) 会員の受賞：本文880字以内
- (2) 寄 稿：本文5,280字以内  
なお、この制限以上の長文あるいは連載希望の寄稿文について  
は3号分までとする。
- (3) 支部・会員だより：本文1,760字以内  
なお、弔文については代表者一  
名に限る。
- (4) ご 案 内：本文880字以内
- (5) そ の 他：掲載の可否および文字数の制限  
については編集部が決定する。

発 行 平成18年8月31日

編 集 兼 猪上 徳雄・平石 智徳

發 行 人 都木 靖彰・山崎 浩司

發 行 所 北海道大学水産学部同窓会

（TEL/FAX 0138-42-3681）

Eメールアドレス：[hokusui@hotweb.or.jp](mailto:hokusui@hotweb.or.jp)

ホームページアドレス：<http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp>

印 刷 所 三秀印刷 TEL.23-6663 FAX.27-5135

いま豊かな食生活。  
見直しましょう魚のある暮らし。

青森市中央卸売市場



青森中央水産株式会社

代表取締役社長 石川栄一

〒030-0183 青森市卸町1番1号  
鮮魚1部 TEL 017(738)1281  
鮮魚2部 TEL 017(738)1281  
冷凍部 TEL 017(738)8221  
塩干部 TEL 017(738)5511  
加工部 TEL 017(738)6581  
企画部 TEL 017(738)1281  
管理部 TEL 017(738)1181  
E-mail : Comment@aochuu.co.jp  
ホームページ : <http://www.aochuu.co.jp>

人工魚礁による水産資源の保護・増殖に貢献します。

 海洋土木株式会社

本社:東京都中央区銀座3-8-13  
TEL:03-3561-3051  
<http://www.kaiyodoboku.com>

代表取締役 鉢木和三(38才)  
常務取締役 真田篤弘(43才)  
青森営業所長 青山禎夫(39才)  
北陸営業所 中道五郎(39才)

食品工場、厨房内の  
自主検査のお手伝いをします。

★HACCP・ISO導入指導及び検証・評価・改善指導

★食品の微生物検査 ★施設類・道具・器具類の拭き取り検査

★食品・副資材・調理室内の微生物の除殺菌テスト

★食品の賞味期限の設定 ★保存テストのデータ蓄積

★その他衛生指導、社員教育などの御相談をお受けします

株式会社 キュー・アンド・シー

代表取締役 奥野和弘 (昭和42製造)

松原 伸二 (昭和62化学) 久保 雅俊 (平成12資源) 佐藤いく子 (平成17資源)

分析室 〒065-0026 札幌市東区北26条東22丁目6-7 ☎(011)786-8300 FAX(011)786-8266

豊富な実績と万全な体制でさらに前進をつづけます。

NAKAYAMA MEDICINES CO. LTD



株式会社 中山薬品商会

代表取締役社長 中山 浩一

本 社 ☎040-0075 函館市万代町20番10号  
PHONE (0138) 40-6275・FAX40-3939  
釧路営業所 ☎084-0903 釧路市昭和町2丁目15番地3  
PHONE (0154) 52-4101・FAX52-4103  
<http://city.hokkai.or.jp/~nakayama/>

営業種目 船舶艤装用品並各種船用品全般・諸機械・工具類  
塗 料 ・ 帆 布 ・ 口 一 プ

(海運局公認、膨張式救命いかだサービスステーション)

北海道大学水産学部 おしょろ丸 連絡事務所  
うしお丸

北 海 道 船 用 品 株 式 会 社

取締役社長 伊 藤 大 介  
支 店 長 唐 戸 幸 一  
所 長 伊 藤 陽 介

本 社 室蘭市海岸町3丁目3番5号 電話0143(代)②1321番  
支 店 函館市弁天町25番2号 電話0138 ②0721番  
営業所 苫小牧市汐見町1丁目2番2-106 FAX0138 ②5420番  
電話0144 ③2601番

(有) 山 本 食 品 研 究 所

山 本 巖  
山 本 律 彦

〒914-0812 福井県敦賀市昭和町2丁目2316番地

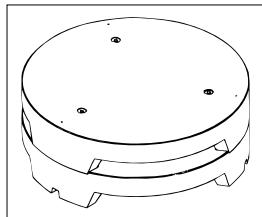
T E L (0770) 23-0297 (代)

F A X (0770) 24-2882

E-mail y-f-labo@aqua.hokuriku.ne.jp

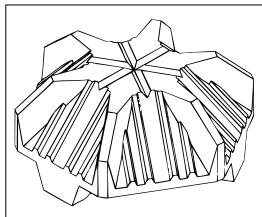
## 未来への海づくりを考える

円形セピア



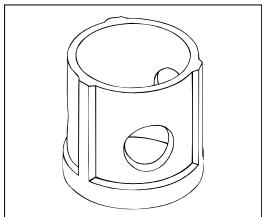
・ヤリイカ産卵場造成

マリノプランテーション



・多目的藻場造成

3.0円筒型魚礁



大型魚礁 人工礁 造成



### 共和コンクリート工業株式会社

代表取締役社長 本間 丈士  
水産開発部技術顧問 田中 毅 (昭44増殖)  
水産営業部長 足助 光久 (昭40増殖)  
(青森支店駐在)  
海洋事業本部副部長 薫田 道雄 (昭44増殖)  
(札幌本社駐在)  
水産開発副部長 坂下 功 (昭45漁業)

本社 〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目28番地(札幌エルプラザ11階)  
TEL(011)736-0204 FAX(011)736-0205

## 北水同窓会 青森支部

支部長 奈良岡 修一 (昭47ギ)  
支部長代行 佐藤 立治 (昭36エ)  
幹事長 天野 勝三 (昭54ゾ)

事務局 〒030-8570

青森市長島一丁目1番1号

青森県農林水産部水産振興課

二木幸彦 (昭56ギ)、田澤亮 (平16シ)

T E L : 017-734-9594

F A X : 017-734-8166

# 住所変更届け用紙

勤務先・自宅等に変更が生じたときは必ずご連絡ください。

連絡は電話、FAX、E-mail、郵送のいずれも可です。

切り取ってご利用下さい。

卒業 年次	昭 平 年	(漁・遠・製・食・化・養・増・特専 海・シ・生・資) 科卒	
フリガナ		フリガナ	
氏名		旧氏名	
現勤務先	勤務先及び部署		
	役職		
	〒	T	F
	所在地		
現住所	〒	T	F
	自宅住所		

送付先：

〒041-8611 函館市港町3丁目1番1号  
北海道大学水産学部北水同窓会  
電 話 0138-42-3681  
F A X 0138-42-3681  
E メール hokusui@hotweb.or.jp

02	函館	払込取扱票								通常払込料金 加入者負担								
口座番号 (右詰めにご記入ください)										金	千	百	十	万	千	百	十	円
0 2 6 2 0 - 5 - 5 8 1										額	※							
加入者名	北水同窓会									料		特殊						
各欄の※印欄は、払込人において記載してください。	※ 本会々費は4,000円です。勤務先等お書き下さい。																	
通 信 欄	昭・平 卒業 学科 年度分 受領書 要・不要																	
払込人住所氏名	(郵便番号 ) ※								受付局日附印									
(電話番号 - - )																		

払込票兼受領証

口 座 番 号	0 2 6 2 0 - 5 - 5 8 1	通常払込 料金加入 者負担														
右詰めにご記入ください																
加入者名	北水同窓会	金	千	百	十	万	千	百	十	円						
額	※															
※	払込人住所氏名															
料	金	(消費税込)	受付局日附印													
特殊	取扱	円														

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。  
切り取らないで郵便局にお出しください。

# 吉原法律事務所

弁護士・海事補佐人 吉原 美智世  
(昭和48年増殖学科卒業)

## 《業務内容》

法律問題に関する紛争処理(交渉・訴訟・調停)・  
企業法務・会社の再建・倒産処理・会社顧問・  
交通・労災・医療事故・行政事件・刑事弁護・  
相続・遺言・自己破産・個人再生  
(法律相談30分5,250円)  
(サラクレ相談無料)

**☎ 011-622-7963**

**FAX 011-622-8414**

札幌市中央区大通西20丁目2番20号 道新円山ビル8階

交通 地下鉄東西線西18丁目駅1番出口

E-mail yosihara@sapporo-law.com